

平成 27 年度大台ヶ原の利用対策に関する調査業務

【報告書】

平成 28 年 3 月

近畿地方環境事務所

株式会社自然産業研究所

【 目次 】

I. はじめに	1
1. 業務目的	1
2. 業務内容	1
(1) 大台ヶ原の利用動向に関する分析	1
(2) 西大台利用調整地区の利用者を対象とした意見聴取の実施	1
II. 大台ヶ原の利用動向に関する分析	2
1. 大台ヶ原の利用動向	2
(1) 山上駐車場駐車台数の推移	2
(2) 路肩駐車発生日数の推移	2
(3) 大台ヶ原の利用者数の推移	3
(4) 大台ヶ原の月別利用者数	3
(5) 大台ヶ原の平日・休日別利用者数	4
(6) 公共交通の利用状況	4
(7) 山上駐車場の駐車台数と路肩駐車の影響状況との関係	5
2. 西大台利用調整地区の利用状況	7
(1) 西大台利用調整地区の認定者数及び入山者数	7
(2) 西大台利用調整地区の平日休日別入山者数	8
3. 巡視及び違反者等への指導の状況	8
4. 大台ヶ原及び西大台利用調整地区の利用ピーク時に関する分析	9
III. 西大台利用調整地区の利用者を対象とした意見聴取の実施	13
1. 調査概要	13
2. 基本事項	14
(1) 回答者の属性 [SA]	14
(2) 来訪を決めた時期 [SA]	17
(3) 団体ツアー・個人の別 [SA]	18
(4) 行程 [SA・FA]	19
(5) 来訪回数 [SA]	20
3. ビジターセンターのレクチャーについて	21
(1) 長さ [SA]	21
(2) 内容 [SA]	21
(3) 配布冊子 [SA]	22
(4) レクチャーの内容や配布冊子について不満の理由・改善すべき点 [FA]	22
(5) その他ご意見 [FA]	23

4. 西大台利用調整地区制度の認知について	25
(1) 利用調整制度の認知度 [SA]	25
(2) 利用調整制度の詳細に関する認知 [MA]	25
(3) 制度を認知した情報媒体 [MA]	26
5. 西大台利用調整地区の利用について	26
(1) 携帯用トイレブースの設置に対する意見 [SA・FA]	26
(2) 利用時における混雑度の印象 [SA]	29
(3) 混雑対策に対する意見 [SA]	29
(4) 西大台利用調整地区の利用時に期待していたもの及び感想 [FA]	30
(5) 西大台利用調整地区の再訪意思 [SA]	32
6. ガイド利用について	33
(1) ガイド利用の経験の有無 [SA]	33
(2) ガイド利用時に訪問した場所 [SA]	34
(3) ガイド利用時のガイド内容 [MA]	34
(4) ガイドを選んだ経緯 [MA]	35
(5) 希望するガイド [SA]	35
(6) 支払可能なガイド料金 [SA]	36
IV. おわりに	37
V. 参考資料	38
1. 西大台利用調整地区の利用に関する意見聴取票	38

I. はじめに

1. 業務目的

環境省では、平成 14 年度に大台ヶ原自然再生検討会を設置し、学識経験者、民間団体、関係機関等とともに調査検討を進め、平成 17 年 1 月に大台ヶ原の今後の保全・再生の方向性をとりまとめた「大台ヶ原自然再生推進計画」を策定した。その後、平成 21 年 3 月に策定した第 2 期計画を経て、平成 25 年度末に新たに「大台ヶ原自然再生推進計画 2014 (以下「推進計画 2014」という。)」を策定し、吉野熊野国立公園の核心地域の一つである大台ヶ原における自然環境への負荷の軽減及び自然体験学習の提供等を可能にする新しい利用のあり方の確立を目指した目標が設定された。

そこで、大台ヶ原の利用状況に関する基礎的なデータ等の収集・分析を行い、推進計画 2014 の効果的な推進に資することが本業務の目的である。

2. 業務内容

(1) 大台ヶ原の利用動向に関する分析

大台ヶ原における利用に関するデータ（西大台利用調整地区の利用者数データ、正午の山上駐車場入込み車両数データ等）を用いて、大台ヶ原の利用動向に関する分析を行う。

また、西大台については、利用調整地区の制度運用を開始して 9 年目を迎えることから、(2) の意見聴取結果を基に、利用調整による効果や問題点について分析する。

(2) 西大台利用調整地区の利用者を対象とした意見聴取の実施

西大台利用調整地区の利用者を対象に同地区の自然環境や制度運用等に関する意見聴取を実施する。

① 意見聴取用紙の送付及び回収

近畿地方環境事務所作成の意見聴取用紙（以下「個票」という。）を必要部数印刷し、大台ヶ原ビジターセンターへ送付する。

個票の利用者（回答者）への配付は、事前レクチャー実施場所において事前レクチャー実施者が行う。

個票の回収は、大台ヶ原ビジターセンター窓口等に設置している回収箱に利用者（回答者）が直接入れるか若しくは返信用封筒を用いた郵送によるものいずれかの方法とする。

② 取りまとめ・分析

回収した個票は、項目ごとに取りまとめる。

次に平成 18 年度から実施している当該結果と項目ごとに時系列的に比較し、利用者意識の経年的な変化等を取りまとめる。

また、利用調整地区に関する問題点等が指摘された場合は、その改善の可能性、対処方法等を法令、費用対効果、地域における様々な要因と照らし合わせながら検討し、取りまとめる。

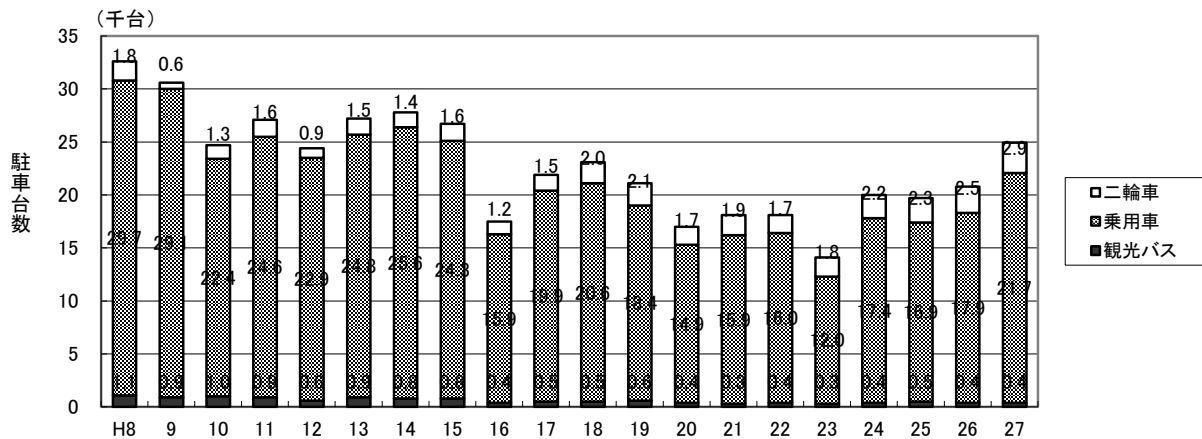
II. 大台ヶ原の利用動向に関する分析

1. 大台ヶ原の利用動向

(1) 山上駐車場駐車台数の推移

- ・平成27年度の山上駐車場の駐車台数は観光バスが395台、乗用車が21,688台、二輪車が2,858台であった。
- ・山上駐車場の駐車台数の過去20年間の推移をみると、平成8年から減少傾向で推移してきたが、平成24年度以降はやや増加に転じ利用の増加が伺える。

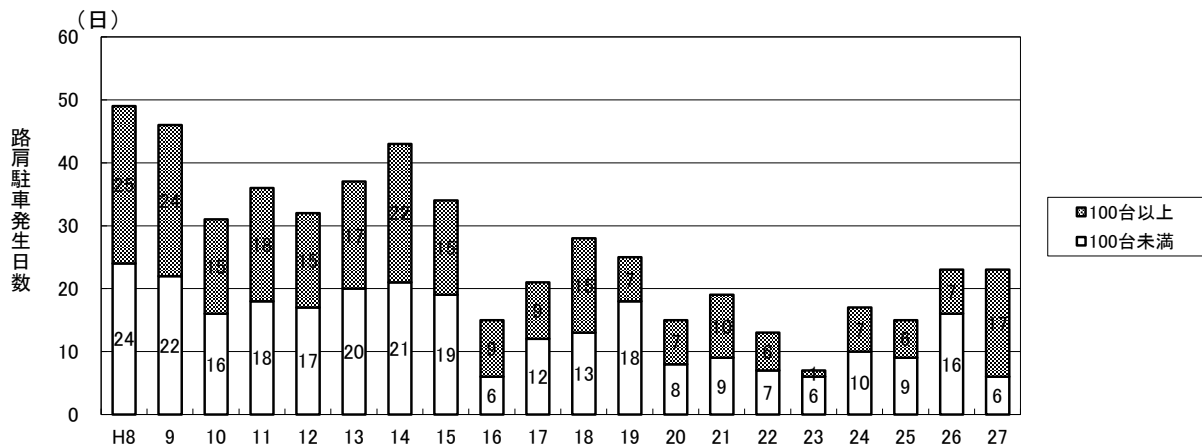
図表1 正午における駐車台数の推移¹（車種区分別、20年間）



(2) 路肩駐車発生日数の推移

- ・平成27年度の路肩駐車が発生している日は23日間であった。
- ・そのうち、100台以上の発生日は17日間、100台未満の発生日は6日間であった。

図表2 路肩駐車発生日数の推移（20年間）

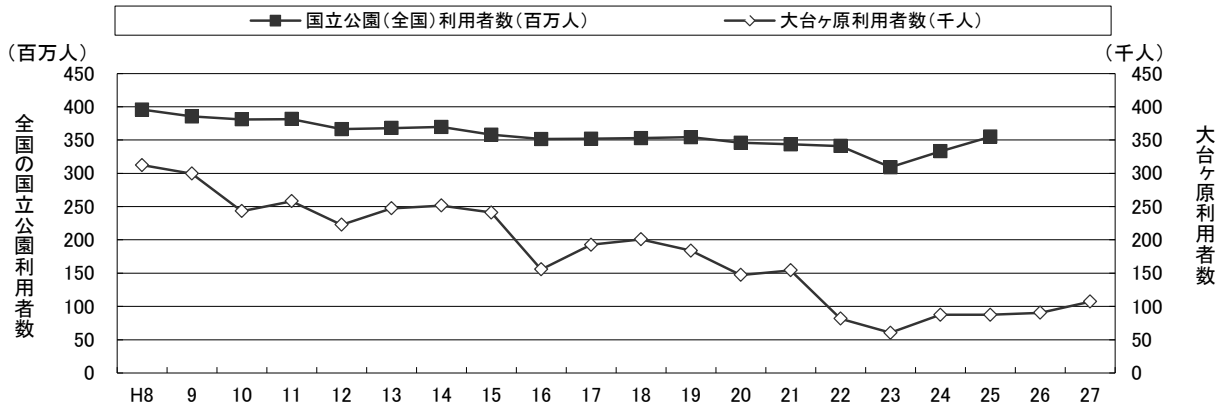


¹ 大台ヶ原ビジターセンターにて記録されている、正午における自動車の駐車台数を出典としている。

(3) 大台ヶ原の利用者数の推移

- ・ 平成 27 年度の大台ヶ原の利用者数は 107,261 人であった。
- ・ なお、大台ヶ原の利用者数の過去 20 年間の推移を全国の国立公園利用者数と併せてみると、双方ともゆるやかに減少傾向にあるが、大台ヶ原の利用者数は平成 23 年度から微増傾向にある。

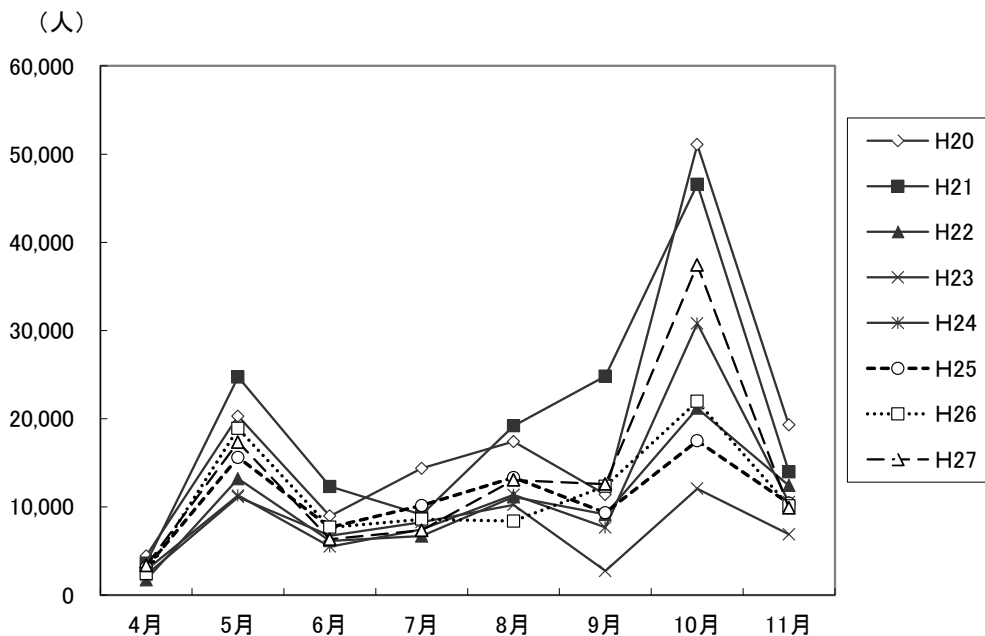
図表 3 全国の国立公園と大台ヶ原の利用者数の推移² (20 年間)



(4) 大台ヶ原の月別利用者数

- ・ 平成 27 年度の大台ヶ原の月別利用者数は 10 月が最多であった (37,423 人)。
- ・ 大台ヶ原の利用者数の推移 (月別) をみると、10 月及び 5 月に利用のピークを迎えており、この傾向は過去 8 年間で大きな変化はない。

図表 4 大台ヶ原の月別利用者数の推移 (H20~27)³



² 全国の国立公園の利用者数は、環境省発表の統計「自然公園等利用者数調」に基づく。また大台ヶ原の利用者数については山上駐車場の駐車台数のデータを用いた推計値である。利用者数の推計式は下記のとおりである。

(H5~H21 の利用者数) 推計利用者数=観光バス台数×25 人+乗用車台数×3 人×3 回転+二輪車台数×1.5 人

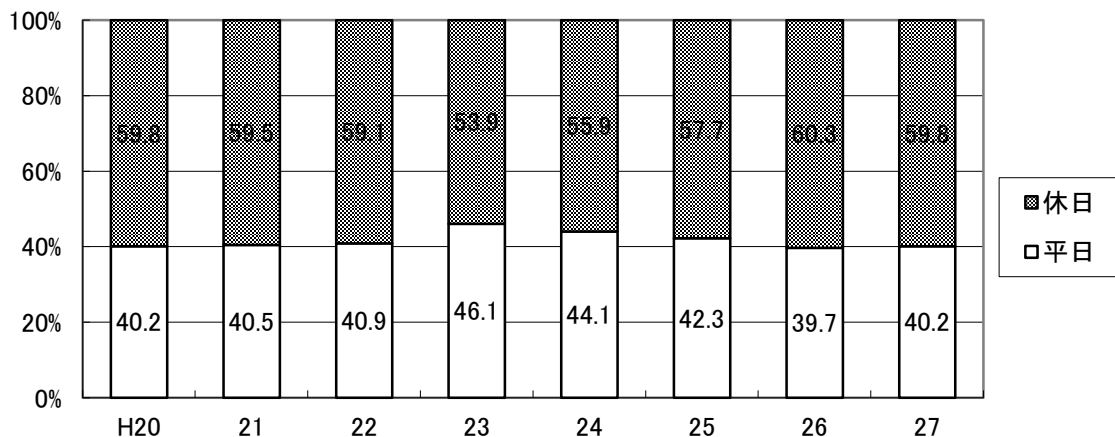
(H22~H27 の利用者数) 推計利用者数=観光バス台数×22 人+乗用車台数×2.2 人×2 回転+二輪車台数×1.1 人

³ 月別の利用者数は山上駐車場の駐車台数の日次データ (大台ヶ原ビジターセンター記録) を用いた推計値である。利用者数の推計式は前注記のとおりである。

(5) 大台ヶ原の平日・休日別利用者数

- ・ 平成 27 年度の利用者数の割合は平日が 40.2%、休日が 59.8%であった。
- ・ 過去 8 年間に於いて、利用者数の割合が、休日は 6 割程度、平日は 4 割程度で推移している。

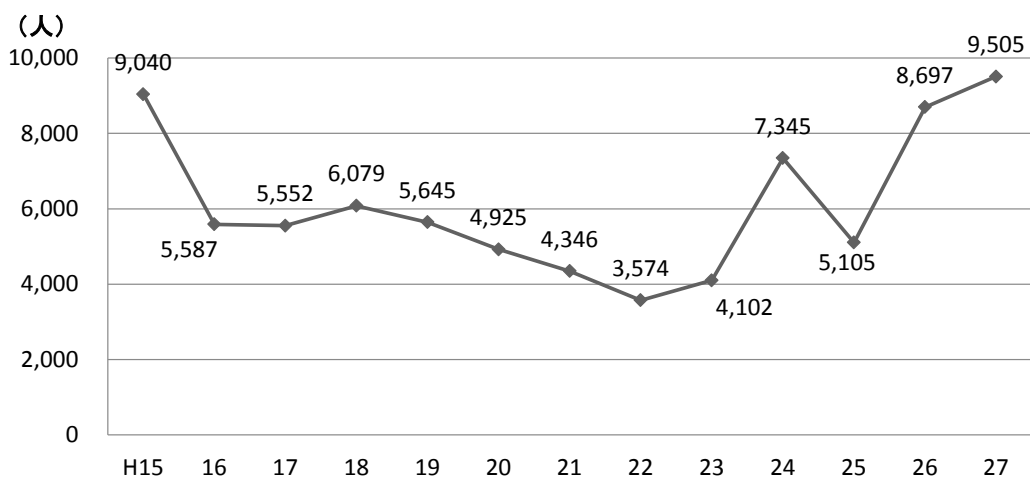
図表 5 大台ヶ原の利用者数の平日・休日別構成割合 (H20~27) ⁴



(6) 公共交通の利用状況

- ・ 平成 27 年度の大台ヶ原バスの乗車実績 (平成 27 年 4 月 25 日～11 月 23 日、207 日間) は延べ 9,505 名であった。
- ・ 平成 22 年度までは減少傾向にあったが、その後増加傾向にある。増加の要因として、近鉄では割引特典つき切符が毎年発売されたこと、奈良交通では「大台ヶ原・洞川周遊フリー乗車券」が平成 24 年度より発売されたこと、また、平成 26 年 4 月に大杉谷線歩道が再開したこと等によると思われる。

図表 6 路線バス乗車人数の推移⁵



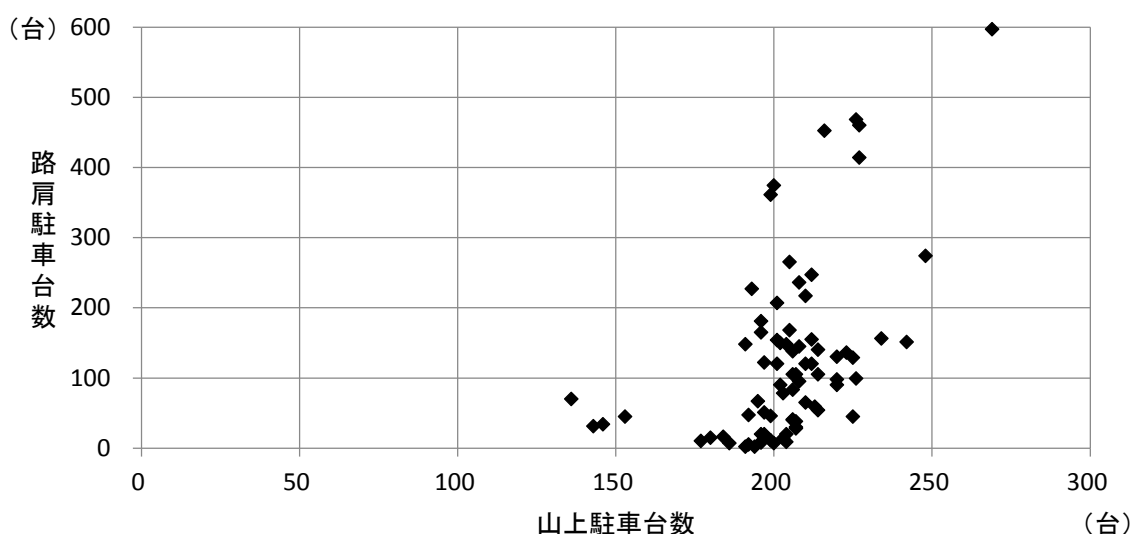
⁴ 平日・休日月別の利用者数は山上駐車場の駐車台数の日次データ (大台ヶ原ビジターセンター記録) を用いた推計値である。利用者数の推計式は前注記と同じである。

⁵ 奈良交通株式会社吉野営業所・葛城営業所提供の資料を基に作成した。平成 15～24 年度および平成 26 年度は乗車人数 (実数値) であり、平成 25 年度は売上金額からの推計値である。

(7) 山上駐車場の駐車台数と路肩駐車との発生状況との関係

- ・ 平成 24～27 年度の大台ヶ原ドライブウェイに路肩駐車が発生した日に係る山上駐車場の駐車台数と路肩駐車台数との散布図は次の図表のとおりである。
- ・ 山上駐車場の駐車台数 150 台前後で路肩駐車が発生している日は 4 年間で 4 日間存在する。これらは大台ヶ原で開催される行事によって、山上駐車場の 3 分の 1 程度が使用できないためによるものと考えられる。具体的には、大台ヶ原山祭り（平成 26 年 5 月 18 日（日）、平成 27 年 5 月 17 日（日）に開催）、ヒルクライム大台ヶ原 since2001（平成 26 年 9 月 13 日（土）・14 日（日））である。

図表 7 山上駐車場の駐車台数と路肩駐車台数の関係（平成 24～27 年度）



- ・ 路肩駐車が発生している日を対象に、年度別に山上駐車場の駐車台数の年間平均値と、路肩駐車が発生台数の年間平均値を下記に整理した（図表 8）。どの年度においても山上駐車場の駐車台数が平均で 200 台前後となる場合に路肩駐車が発生している。また平成 25 年度及び平成 26 年度は路肩駐車が発生台数が平均で 100 台以下となっていたが、平成 27 年度は 169 台となり、急激に増加した。
- ・ 特に平成 27 年度は、10 月 18 日（日）から 10 月 26 日（月）にかけて、平日・祝休日関係なく、9 日間連続で路肩駐車が発生した。また当該期間における路肩駐車が発生台数は 9 日間の平均で 260.2 台であり、平成 27 年度の路肩駐車台数の平均値を引き上げていると考えられる。

図表 8 山上駐車場の平均駐車台数と路肩駐車平均発生台数
(台/平均)

年度	山上駐車場 駐車台数(平均値)	路肩駐車 発生台数(平均値)
H24	211	139
H25	198	88
H26	193	95
H27	213	169

- ・ なお、4年間に於いて路肩駐車が発生している77日間のうち、イベント実施日と重なる日は前述の4日間のみである。
- ・ このため、イベントの開催日の有無が路肩駐車の原因であるとは言いがたい。
- ・ また、77日間のうち、平日は14日間、祝休日は63日間であり、大きな差がある。
- ・ このことから、利用者数が増加する休日には路肩駐車が発生しやすい状況と考えられる。

2. 西大台利用調整地区の利用状況

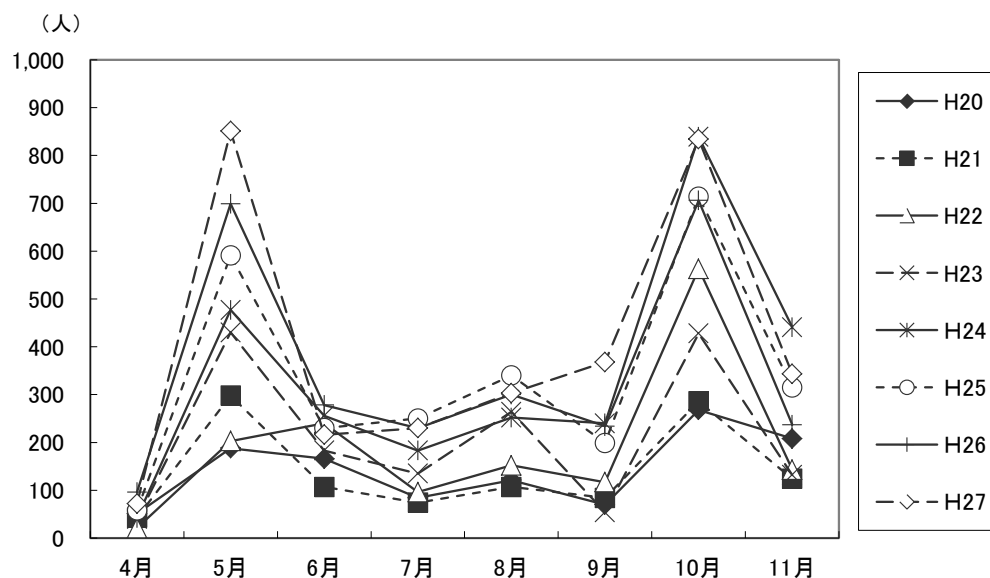
(1) 西大台利用調整地区の認定者数及び入山者数

- ・ 西大台利用調整地区の認定者数及び入山者数は、利用調整地区制度の運用を開始した平成 19 年 9 月以降、いずれも増加傾向にあり、平成 27 年度の認定者数は 3,495 人、入山者数は 3,217 人で、過去最多であった。
- ・ 月別に見ると、入山者数は 5 月が最も多く (851 人)、次いで 10 月 (834 人) であった。
- ・ 例年は 10 月が最多となり、次点が 5 月となるが、今年度は例年と異なる傾向を示した。

図表 9 西大台利用調整地区の認定者数・入山者数の推移⁶

月	認定者数(人)									入山者数(人)								
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
4月	-	55	51	21	56	42	60	109	74	-	51	43	21	40	42	58	96	72
5月	-	222	324	260	524	519	636	756	934	-	188	298	203	430	477	591	699	851
6月	-	174	118	273	249	281	251	309	236	-	166	107	240	183	256	230	278	216
7月	-	88	86	102	154	198	262	270	289	-	84	74	96	135	183	250	230	230
8月	-	127	137	153	285	270	370	367	320	-	121	107	152	264	252	340	300	303
9月	67	85	87	124	129	275	294	262	395	52	70	84	117	54	240	199	234	368
10月	250	304	332	615	512	903	915	866	870	218	268	286	563	428	839	714	706	834
11月	135	233	138	160	153	491	366	286	377	118	208	124	143	132	441	315	237	343
合計	452	1,288	1,273	1,708	2,062	2,979	3,154	3,225	3,495	388	1,156	1,123	1,535	1,666	2,730	2,697	2,780	3,217
認定者数に対する割合(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	85.8	89.8	88.2	89.9	80.8	91.6	85.5	86.2	92.0

図表 10 西大台利用調整地区の月別入山者数の推移



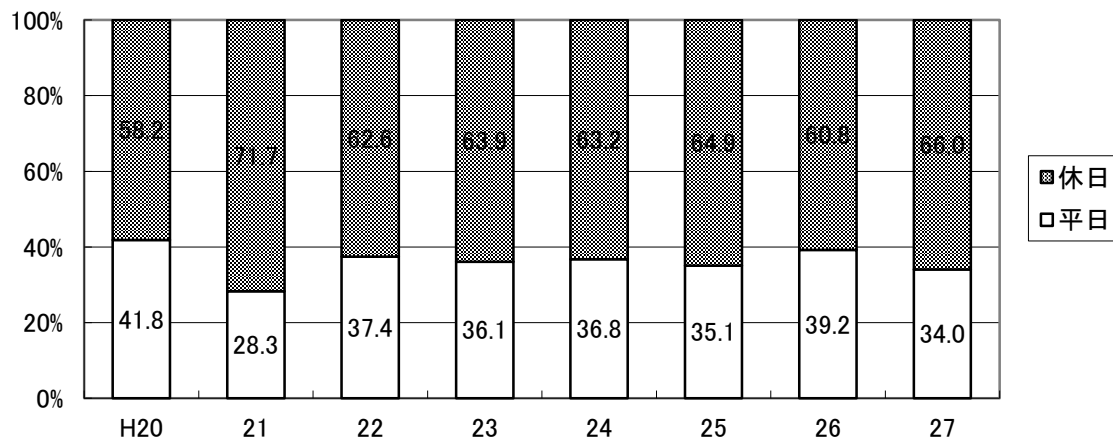
- ・ 月別の入山者数の推移をみると、年度ごとにばらつきがみられるものの、5月と10月がピークとなっている。

⁶ データは大台ヶ原ビジターセンターの報告記録に基づく。なお、「認定者数」は認定証を発行した人数（申請済の人数）を示し、「入山者数」は認定証にレクチャー印を押した人数を示す。

(2) 西大台利用調整地区の平日休日別入山者数

- ・平成27年度の利用者数の割合は、平日が34.0%、休日が66.0%の構成であった。
- ・過去8年間をみると、平成20年度を除いた7年間では休日における入山者数が6割を超えている。大台ヶ原の利用者数とも比較すると、西大台利用調整地区の入山は休日が比較的多い傾向が見られる。

図表 11 西大台利用調整地区の入山者数の平日・休日別構成割合（H20～27）⁷



3. 巡視及び違反者等への指導の状況

西大台利用調整地区における巡視、違反者等への指導状況をみると、平成21年頃から指導等の件数は減少傾向で推移しており、平成27年度の指導件数は4件、未認定立入の防止は0件であった。

図表 12 違反者等への指導の状況

年度	区域内における 無認定立入者への指導		入口等での 無認定立入の防止	
	件数	人数	件数	人数
H19	21	40	34	—
H20	19	32	62	110
H21	6	10	22	46
H22	8	16	20	35
H23	6	8	17	29
H24	6	8	3	5
H25	3	6	20	不明
H26	2	2	4	10
H27	4	7	0	0

※19年度は9～11月の3ヶ月のみ。

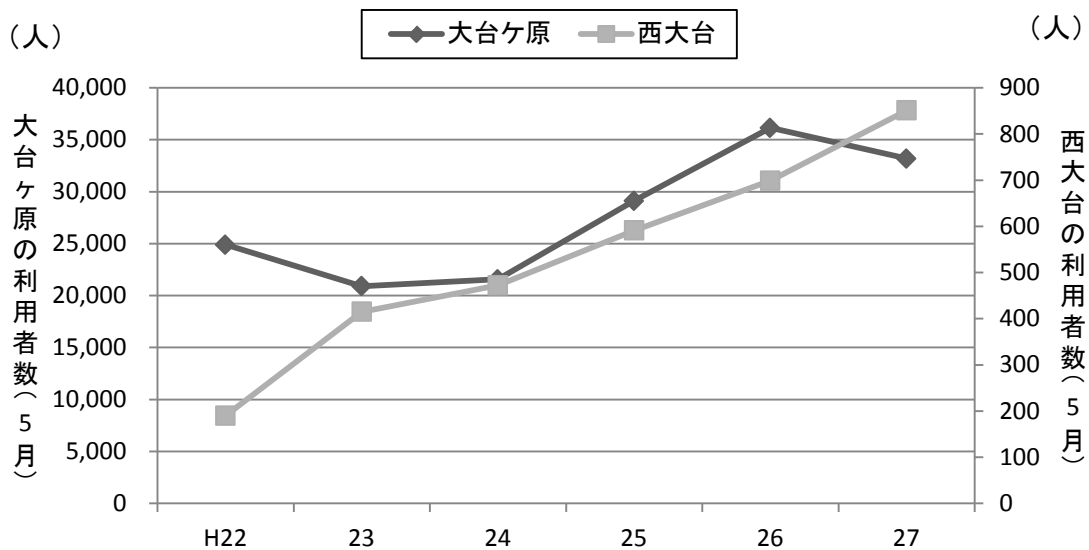
⁷平日・休日月別の利用者数は山上駐車場の駐車台数の日次データ（大台ヶ原ビジターセンター記録）を用いた推計値である。利用者数の推計式は前注記と同じである。

4. 大台ヶ原及び西大台利用調整地区の利用ピーク時に関する分析

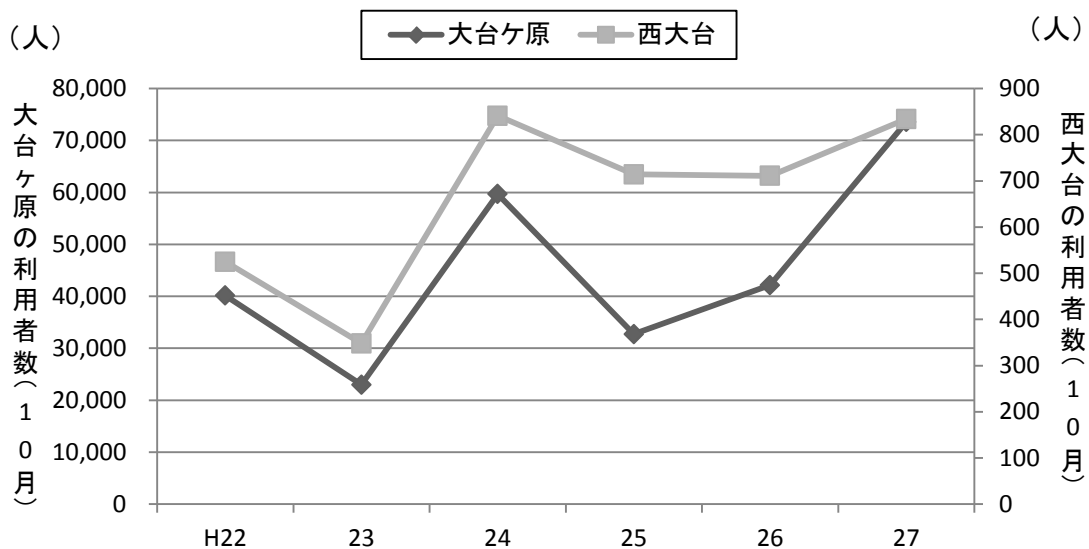
① 分析

- ・ 前述のとおり、大台ヶ原と西大台利用調整地区の利用者数は5月と10月にピークを迎えているが、年によって5月と10月における利用者数にも差が存在することが確認できる。
- ・ 利用者数を左右する要因として、(a) 天候(雨天/雨天以外)及び(b) 連休数の2つに主な要因があると想定して分析を行った。
- ・ まず、5月と10月の年別利用者数の推移は次のとおりとなっており、大台ヶ原と西大台利用調整地区のいずれにおいても、利用者数は増加傾向にあると言える。

図表 13 5月の利用者数の推移 (H22~27)



図表 14 10月の利用者数の推移 (H22~27)



- ・ 次に、5月及び10月について、雨天の日数と連休数を整理した。
- ・ 5月について、大台ヶ原及び西大台利用調整地区の利用者数はともに増加傾向にある。
- ・ しかし、下記表からもわかるとおり、雨天の日数は年度ごとに増減しており、利用者数の増加とは関係があるとは言いがたい。
- ・ 次に、連休に着目すると、平成23年からは連休が大型になる傾向にあることが確認できる。つまり、大型連休によって両スポットの利用者数が増加していることが伺える。

図表 15 5月の雨天の日数と連休数 (H20~27)

区分	大台ヶ原 利用者数 (人)	西大台 利用調整 地区 利用者数 (人)	雨天 の日数 (日)	3連休 の数 (件)	4連休 の数 (件)	5連休 の数 (件)
H22	24,902	190	8	0	0	1
23	20,915	415	17	1	0	0
24	21,574	472	15	0	1	0
25	29,127	591	8	0	1	0
26	36,143	699	5	0	1	0
27	33,191	851	11	0	0	1

- ・ 10月は、利用者数が平成23年に落ち込んだ一方で、平成24年と平成27年に比較的增加していることが読み取れる。平成24年と平成27年に利用者数が増加した要因としては、下記表より雨天の日数が少なかったことが考えられる。
- ・ 特に平成27年では、平年の3割~5割ほどしか雨天の日数がなかった。このため、雨天の日数が少ないとより利用者数が増えると予想される。しかし、平成23年に関しては、雨の日数はデータ期間の中で3番目に少ないものの、利用者数がかなり落ち込んでいる。
- ・ したがって、5月と同様に、雨天の日数が必ずしも利用者数の増減に有意な影響を与えているとは言いがたい。
- ・ 次に、連休数に着目すると、10月はすべての年で3連休が1回ずつで同じ条件であるが、利用者数は年ごとに増減があり、連休の日数と利用者数の増減についての相関性はみられない。
- ・ さらに、土日祝日の雨天の日数に着目すると、平成23年の土日祝日は11日あったが、降雨の記録があるのはそのうち3日であった。平成22年でも11日の土日祝日のうち6日が雨天となっており、平成23年の2倍となっている。しかしながら、利用者数は平成23年の方が少ない。これらのことから、必ずしも天候が利用者数を左右するものではないという結果が見られた。

図表 16 10月の雨天の日数と連休数 (H20~27)

区分	大台ヶ原 利用者数 (人)	西大台 利用調整 地区 利用者数 (人)	雨天 の日数 (日)	3連休 の数 (件)	4連休 の数 (件)	5連休 の数 (件)	土日祝日の 雨天の日数 (日)
H22	40,154	525	12	1	0	0	6
23	22,982	348	10	1	0	0	3
24	59,683	841	8	1	0	0	2
25	32,712	714	19	1	0	0	6
26	42,164	711	13	1	0	0	3
27	73,602	834	5	1	0	0	2

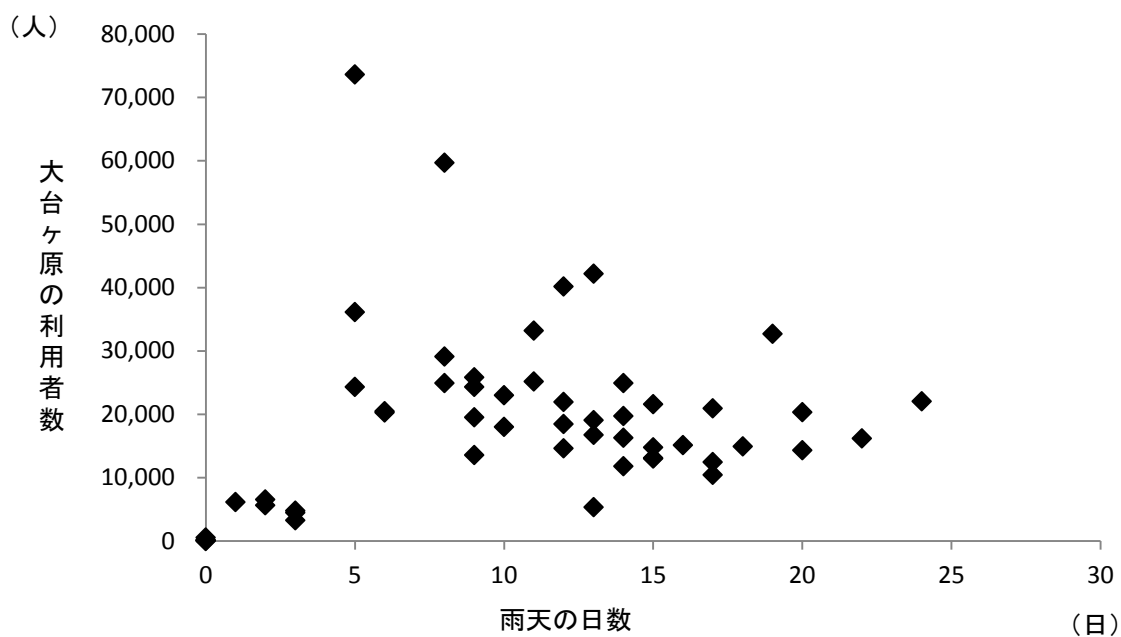
- ・ 次に、平成 20～27 年について、雨天の日数と大台ヶ原の利用者数を確認するため、整理をすると下記のとおりとなる。

図表 17 雨天の日数と大台ヶ原の利用者数の関係

区分		H22	H23	H24	H25	H26	H27
4月	雨天の日数	3	3	2	1	3	2
	大台ヶ原利用者数	3,289	4,486	5,644	6,150	4,794	6,561
5月	雨天の日数	8	17	15	8	5	11
	大台ヶ原利用者数	24,902	20,915	21,574	29,127	36,143	33,191
6月	雨天の日数	14	15	17	18	15	17
	大台ヶ原利用者数	11,779	13,011	10,458	14,905	14,795	12,472
7月	雨天の日数	15	14	12	14	13	20
	大台ヶ原利用者数	13,088	16,303	14,616	19,725	16,720	14,338
8月	雨天の日数	12	20	24	9	22	11
	大台ヶ原利用者数	21,930	20,344	22,062	25,831	16,201	25,188
9月	雨天の日数	10	13	16	12	9	14
	大台ヶ原利用者数	18,012	5,342	15,115	18,455	24,326	24,942
10月	雨天の日数	12	10	8	19	13	5
	大台ヶ原利用者数	40,154	22,982	59,683	32,712	42,164	73,602
11月	雨天の日数	5	9	6	6	9	13
	大台ヶ原利用者数	24,298	13,584	20,485	20,296	19,525	19,062

- ・ この 2 変数の相関図を下記に示す。この 2 変数の相関係数は 0.25 であり、強い相関は確認できなかった。
- ・ このため、天候（雨天の数）が利用者数の増減に影響を与えているとは言いがたく、他にも要因があると考えられる。

図表 18 雨天の日数と大台ヶ原の利用者数との相関図



- ・ また、連休数について見ても、前述のとおり、5月は連休の大型化と利用者数の増加が相関しているように見えるが、これも因果関係があるかどうかは本分析では結論づけることは難しい。

② 考察

- ・ 今回の分析では、利用者数を左右する要因は天候と連休の日数以外の要因も含まれると考えられる。
- ・ 例えば、利用者は天気予報を事前に確認する、あるいは当日の天候の状況を見て行動すると考えられるため、利用予定日の天気予報や当日朝の天候が利用行動に影響を与えている可能性もある。また、特に今回の分析では大台ヶ原の天候を用いて分析を行ったため、出発地や麓の天候を分析対象に含める必要が考えられる。
- ・ 西大台は入山日の予約をしているため、雨天であっても入山する者が、一般の山に比べ高い傾向にあると考えられる。
- ・ 上記の他、その年や前年の雑誌やテレビなどのマスメディアへの露出度、高齢の登山者の増加など複数の要因も作用している可能性がある。
- ・ また、利用行動の要因を分析するには、利用者に対する意見聴取（アンケート調査）も有効であると考えられ、後述の分析結果の活用及び意見聴取票についても検討が必要である。

III. 西大台利用調整地区の利用者を対象とした意見聴取の実施

1. 調査概要

- ・ 「西大台利用調整地区」の事前レクチャー受講者を対象に意見聴取（アンケート調査）を実施し、利用者の属性や利用実態、利用後の満足度、事前レクチャーに対する評価等を把握した。
- ・ 意見聴取の実施方法は図表 18 に示すとおりである。また、意見聴取票における主な質問項目は図表 19 に示すとおりである。

図表 19 意見聴取の方法

<p>■調査名</p> <ul style="list-style-type: none">・ 西大台利用調整地区の利用に関する意見聴取
<p>■対象</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「西大台利用調整地区」の事前レクチャー受講者
<p>■配付期間</p> <ul style="list-style-type: none">・ 平成 27 年 4 月 25 日～11 月 30 日
<p>■調査票の配布・回収</p> <ul style="list-style-type: none">・ 大台ヶ原ビジターセンターにて、事前レクチャー実施者より、事前レクチャー受講者に対し、意見徴収用紙と返信用封筒を配付した。意見聴取用紙の回収方法は、現地回収（大台ヶ原ビジターセンター）と郵送回収の 2 種である。

図表 20 主な質問項目

<ul style="list-style-type: none">・ 利用者情報・ 来訪を決めた時期・ 団体ツアー・個人（団体ツアー以外）の別・ 行程（宿泊の有無）・ 来訪回数・ 入山前に大台ヶ原ビジターセンターで受けたレクチャーについて・ 西大台利用調整地区の制度に対する認知・ 携帯用トイレブースの設置の意向・ 利用時の混雑さの印象・ 印象に残ったこと・ 再訪の意向・ ガイド利用について
--

図表 21 平成 19～27 年度のアンケート配布数⁸及び回収率

区分	配布数	回収数	回収率
H19	355	348	98.0%
H20	1,025	445	43.4%
H21	1,020	145	14.2%
H22	1,501	448	29.8%
H23	1,604	420	26.2%
H24	1,930	659	34.1%
H25	2,615	545	20.8%
H26	943	643	68.2%
H27	2,576	916	35.6%

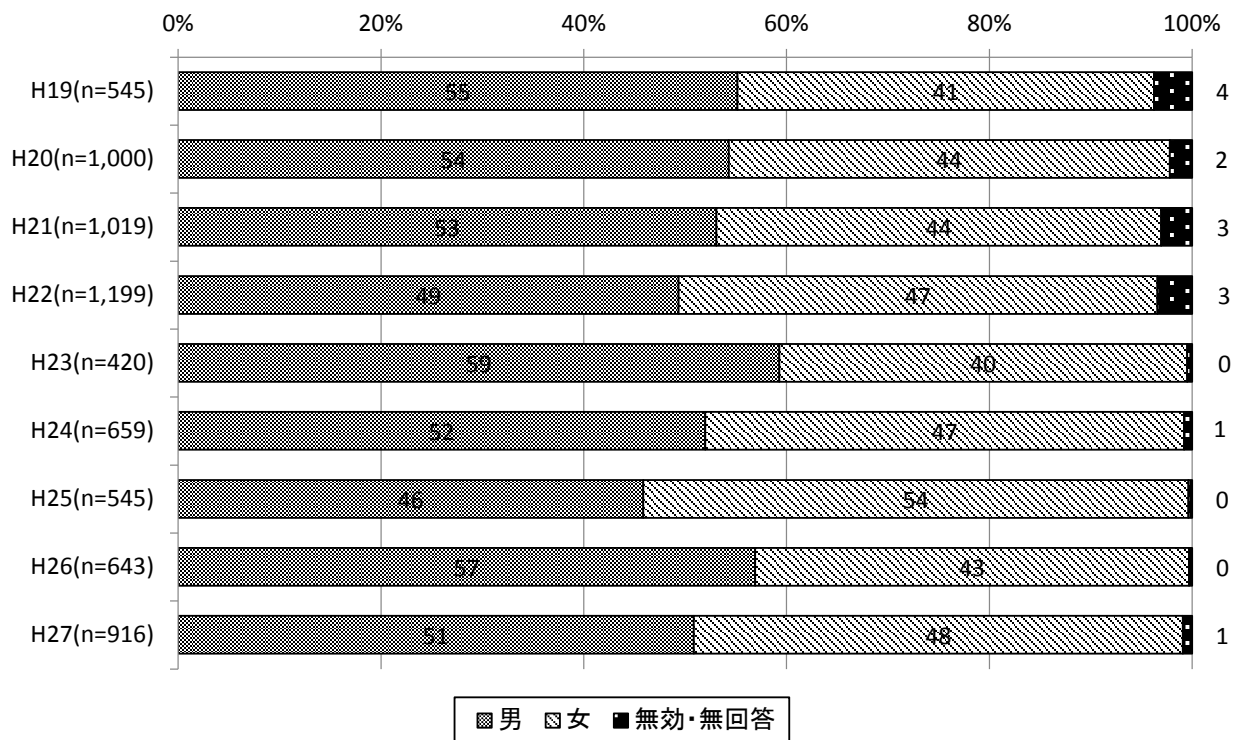
2. 基本事項

(1) 回答者の属性 [SA]⁹

① 性別

- ・ 平成 27 年度利用者の性別は男性が 50.9%、女性が 48.3%であった。
- ・ 男性の利用者が女性の利用者よりもやや上回っている。

図表 22 利用者の性別



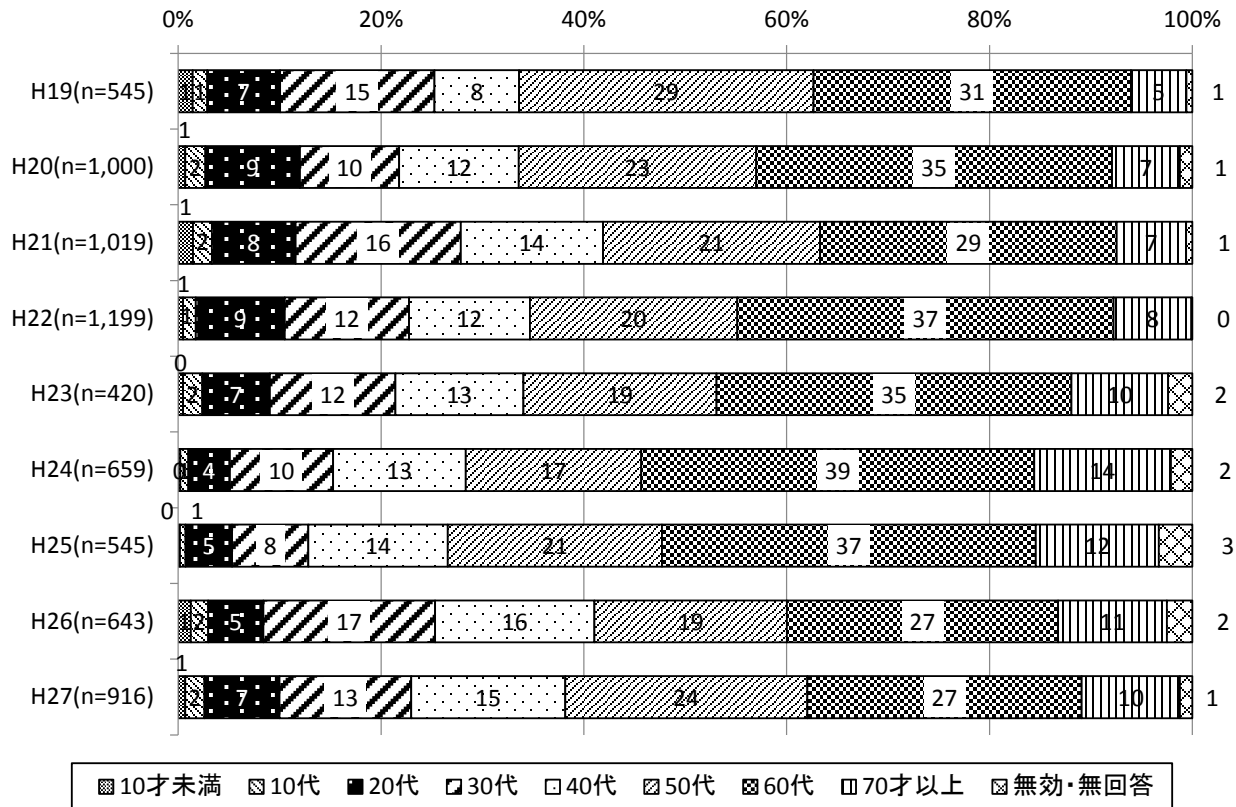
⁸ 平成 27 年度の配布数はレクチャー受講者数に相当

⁹ 以下、単一選択の質問は [SA]、複数選択の質問は [MA]、記述式（自由回答）の質問は [FA] と表示

② 年齢

- ・平成27年度利用者の年齢は、60代が最も多く（27.1%）、次いで50代（23.9%）、40代（15.2%）となっている。
- ・昨年度と平成27年度の結果を見ると、平成24～25年度と異なり、50代以下の利用者が60%以上を占めている。

図表 23 利用者の年齢



③ 居住地

- ・平成27年度利用者の居住地については、大阪府が最多であった（29.4%）。次いで奈良県（19.3%）、兵庫県（12.3%）、京都府（9.3%）の順であった。
- ・上記4府県で全体の約7割を占めている。

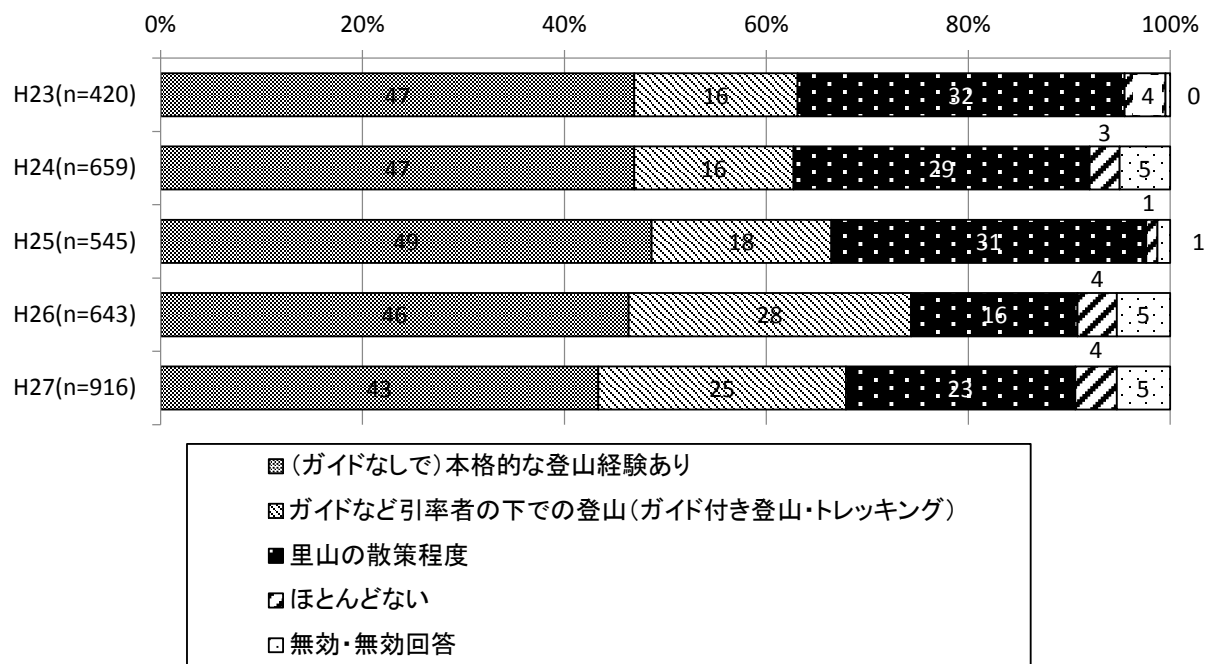
図表 24 利用者の居住都道府県（上位8県）

区分	H19 (n=545)	H20 (n=1,000)	H21 (n=1,019)	H22 (n=1,199)	H23 (n=420)	H24 (n=659)	H25 (n=545)	H26 (n=643)	H27 (n=916)
1	大阪 39.4	大阪 35.0	大阪 30.3	愛知 23.1	大阪 31.4	大阪 30.5	大阪 25.9	大阪 32.3	大阪 29.4
2	奈良 15.2	奈良 13.1	兵庫 14.1	大阪 20.1	奈良 18.1	奈良 12.6	奈良 13.9	兵庫 15.4	奈良 19.3
3	兵庫 11.2	兵庫 11.2	奈良 13.2	奈良 16.1	兵庫 11.0	兵庫 8.5	兵庫 12.3	京都 10.6	兵庫 12.3
4	三重 9.5	京都 6.5	京都 9.2	兵庫 10.5	愛知 5.7	愛知 8.5	愛知 7.3	奈良 9.2	京都 9.3
5	京都 6.0	三重 6.1	神奈川 4.2	京都 10.1	京都 5.5	三重 7.3	京都 5.1	岡山 5.8	愛知 4.1
6	愛知 4.9	東京 6.0	愛知 3.9	三重 7.9	三重 4.5	京都 7.0	和歌山 3.9	愛知 5.6	滋賀 2.7
7	東京 2.6	愛知 5.9	東京 3.5	和歌山 2.7	和歌山 4.3	静岡 5.9	神奈川 3.5	和歌山 4.5	神奈川 2.6
8	神奈川 1.7	和歌山 3.8	和歌山 3.5	岐阜 1.8	福岡 2.4	和歌山 2.9	滋賀 2.6	三重 2.6	東京 2.4

④ 登山経験

- 平成 27 年度利用者の登山経験については、「(ガイドなしで)本格的な登山経験あり」とした人が最多であった(43.3%)。次いで、「ガイドなど引率者の下での登山(ガイド付き登山・トレッキング)」(24.5%)、「里山の散策」(22.7%)であった。

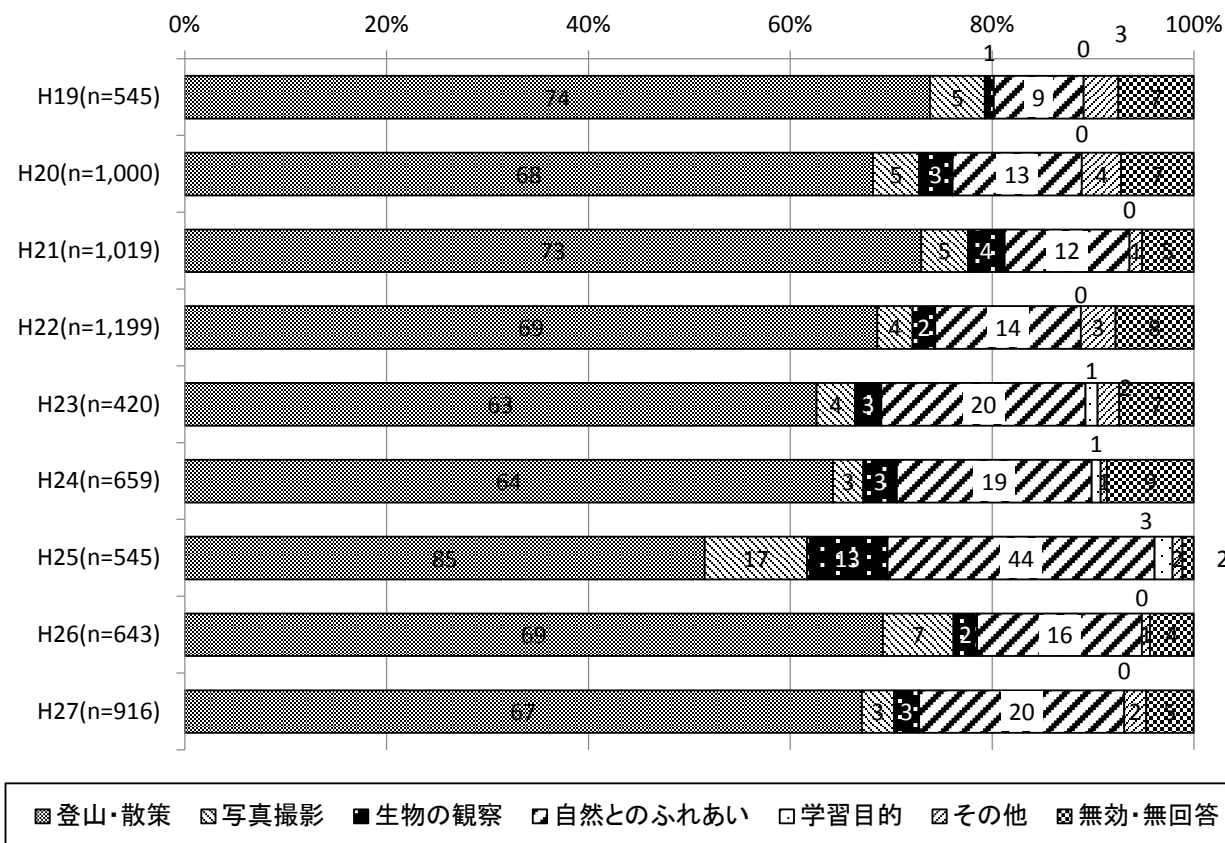
図表 25 利用者の登山経験



⑤ 来訪目的

- 平成 27 年度利用者の西大台への来訪目的^{10,11}は「登山・散策」が最多であった (67.1%)。次いで「自然とのふれあい」 (20.3%) であった。

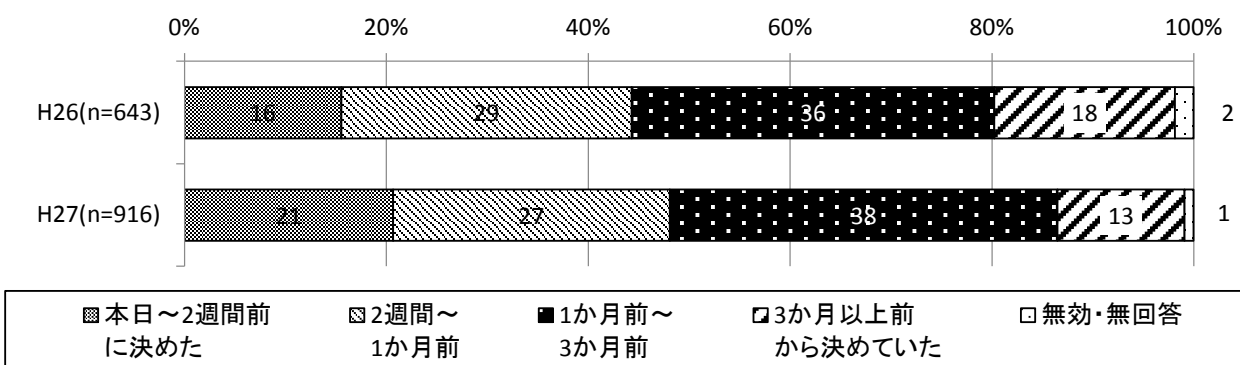
図表 26 西大台への来訪目的



(2) 来訪を決めた時期 [SA]

- 平成 27 年度利用者の西大台利用調整地区の利用を決めた時期は、「1 か月前～3 か月前」が最多 (38.4%) となり、次いで「2 週間～1 か月前」 (27.4%) であった。

図表 27 西大台への来訪を決めた時期



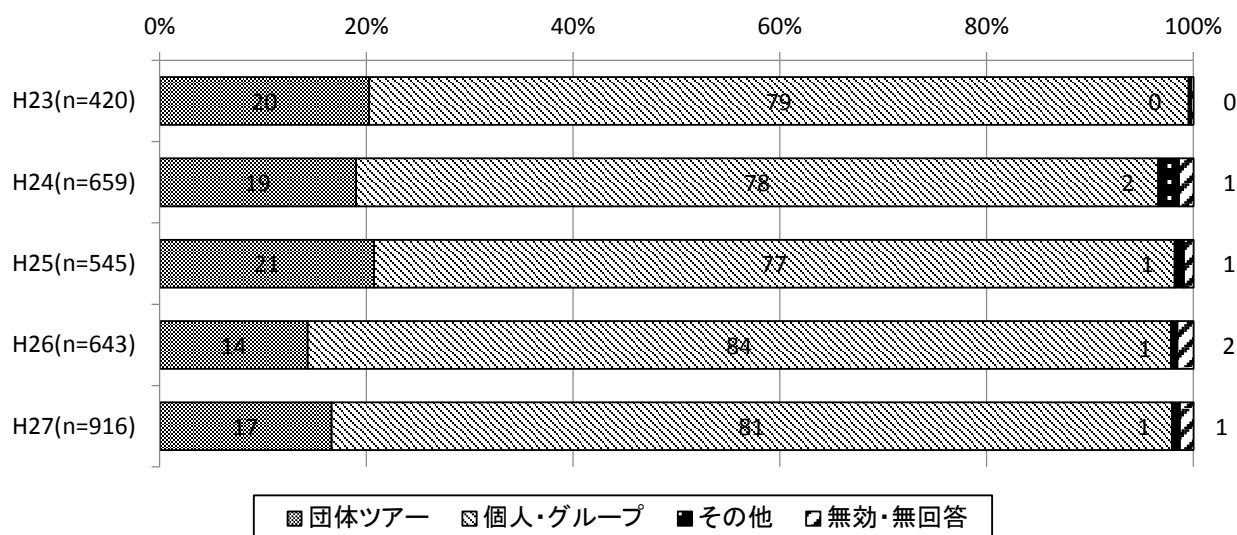
¹⁰ 「学習目的」の選択肢は平成 23～25 年度のみ

¹¹ 平成 25 年度は設問が複数回答のため、合計が 100%を超える。

(3) 団体ツアー・個人の別 [SA]

- 平成 27 年度利用者における団体ツアー・個人の別については、「個人・グループ」が最多であった (81.3%)。次いで「団体ツアー」であった (16.6%)

図表 28 団体ツアー・個人の別



- 旅行会社ツアーの参加者 105 名について、その主催者は「アルファトラベル」が最も多く (32 名)、次いで「阪急交通社 (トラピックス)」 (15 名)、「サンケイトラベル」「クラブツーリズム」 (各 13 名) であった。
- 登山や自然観察のガイドツアー 47 名について、その主催者は「内炭登山ガイド企画」「上北山村商工会」が最も多く (各 6 名)、次いで「奈良山岳自然ガイド協会」 (5 名) であった。

図表 29 旅行会社主催のツアー 主催者名

区分	カテゴリ	実数	%
1	アルファトラベル	32	30.5
2	阪急交通社(トラピックス)	15	14.3
3	サンケイトラベル	13	12.4
4	クラブツーリズム	13	12.4
5	朝日旅行	10	9.5
6	愛媛新聞旅行	5	4.8
7	その他	4	3.8
	無効・無回答	13	12.4
	計	105	100.0

図表 30 登山や自然観察のガイドツアー 主催者名

区分	カテゴリ	実数	%
1	内炭登山ガイド企画	6	12.8
2	上北山村商工会	6	12.8
3	奈良山岳自然ガイド協会	5	10.6
4	飛鳥トレッキングガイドコース	3	6.4
5	愛媛新聞旅行	2	4.3
6	京都趣味登山会	2	4.3
7	その他	8	17.0
	無効・無回答	15	31.9
	計	47	100.0

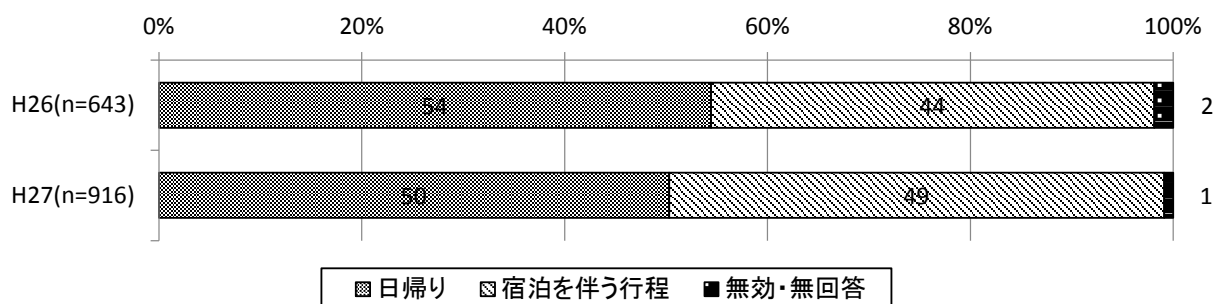
図表 31 個人・グループでの来訪時の人数

区分	個人・グループの人数	実数	%
1	1人	52	7.0
2	2人	268	36.0
3	3人	77	10.3
4	4人	64	8.6
5	5人	49	6.6
6	6人	53	7.1
7	7人	29	3.9
8	8人	16	2.1
9	9人	12	1.6
10	10人	19	2.6
11	11人以上	48	6.4
	無効・無回答	58	7.8
	計	745	100.0

(4) 行程 [SA・FA]

- ・平成27年度利用者行程は「日帰り」(50.3%)と「宿泊を伴う行程」(48.8%)がほぼ同数であった。
- ・具体的な宿泊先は、「心・湯治館」が最多で(55.6%)、次いで「車中泊」(5.0%)、「桃の木山の家」(4.1%)であった。

図表 32 大台ヶ原への行程



図表 33 宿泊先 (宿泊を伴う行程の利用者のみ)

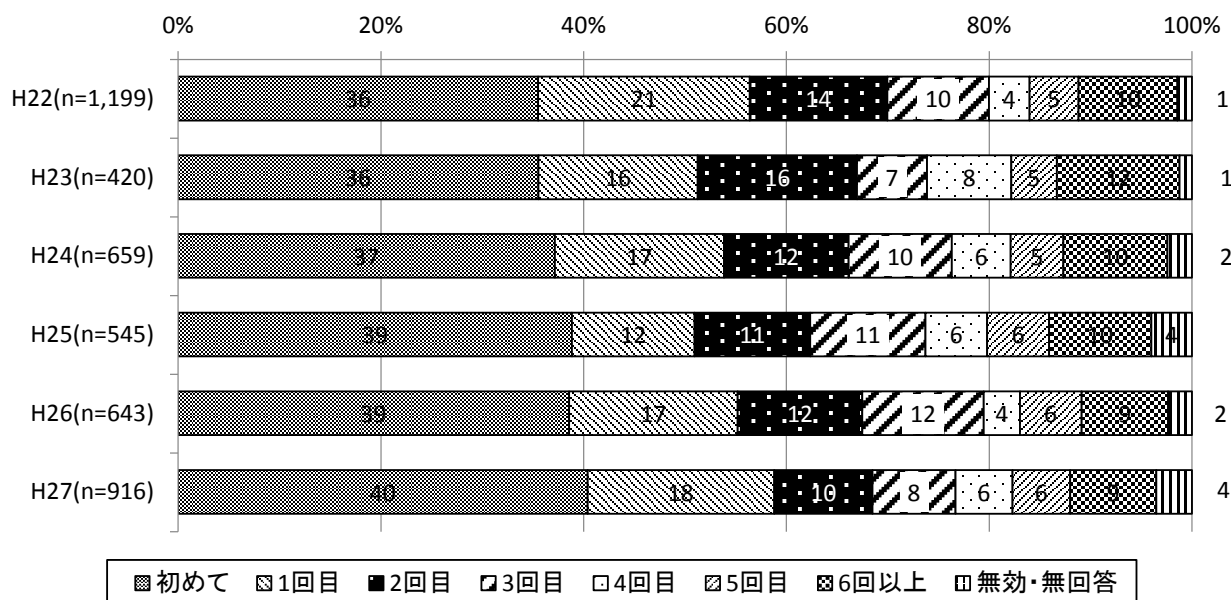
区分	カテゴリ	人数	%
1	心・湯治館(旧大台荘・大台山の家)	244	55.6
2	車中泊	22	5.0
3	桃の木山の家	18	4.1
4	和佐又山ヒュッテ	9	2.1
5	富喜屋	6	1.4
6	杉の湯	6	1.4
7	上記以外	39	8.9
	無効・無回答	95	21.6
	計	439	100.0

(5) 来訪回数 [SA]

① これまで大台ヶ原に来た回数

- ・ 平成 27 年度利用者における大台ヶ原への来訪回数は、「初めて」が最多となり (40.4%)、次いで「1 回目」 (18.4%)、「2 回目」 (10.1%) と続く。
- ・ 上記傾向は利用調整制度の開始以降大きな変化はない。

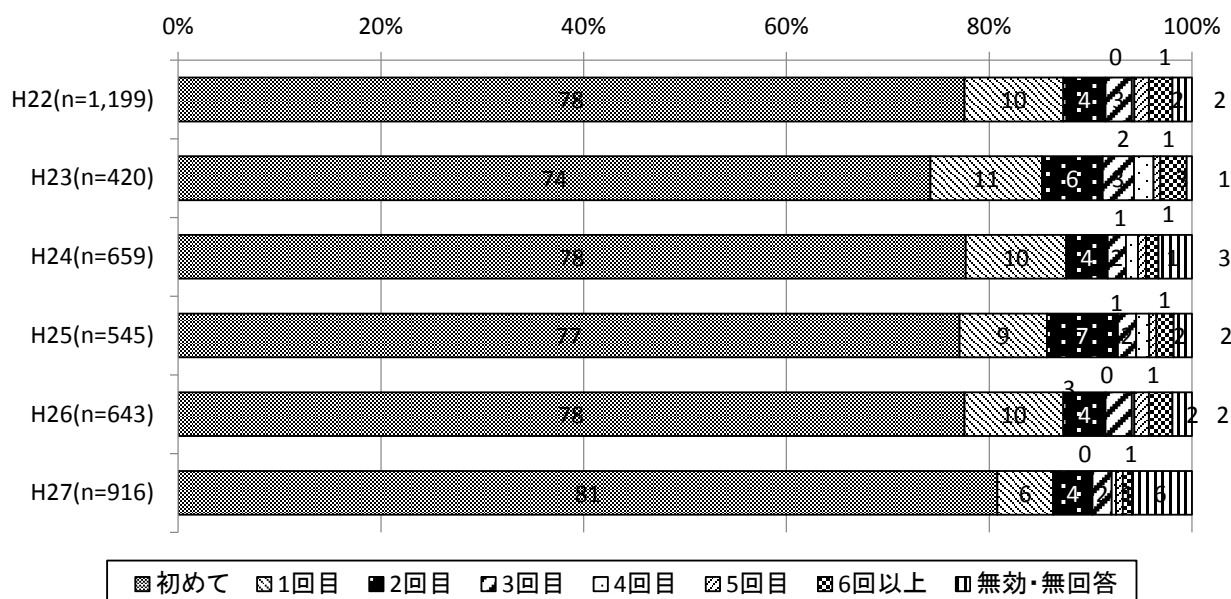
図表 34 大台ヶ原への来訪回数



② うち西大台地区に来た回数

- ・ 平成 27 年度利用者における西大台地区への来訪回数は、「初めて」が最多 (80.9%) であった。
- ・ 本傾向は利用調整の開始以来大きく変わっていない。

図表 35 西大台への来訪回数

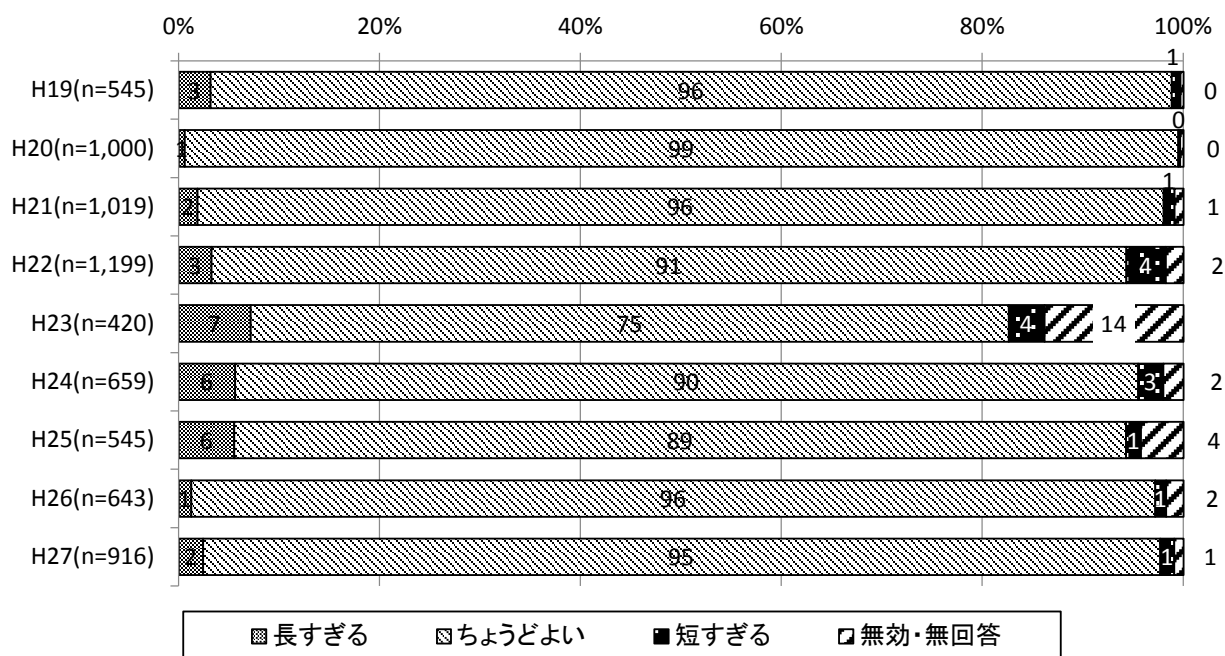


3. ビジターセンターのレクチャーについて

(1) 長さ [SA]

- 平成 27 年度における事前レクチャーの長さ（時間）については、「ちょうどよい」が最多であった（95.3%）。

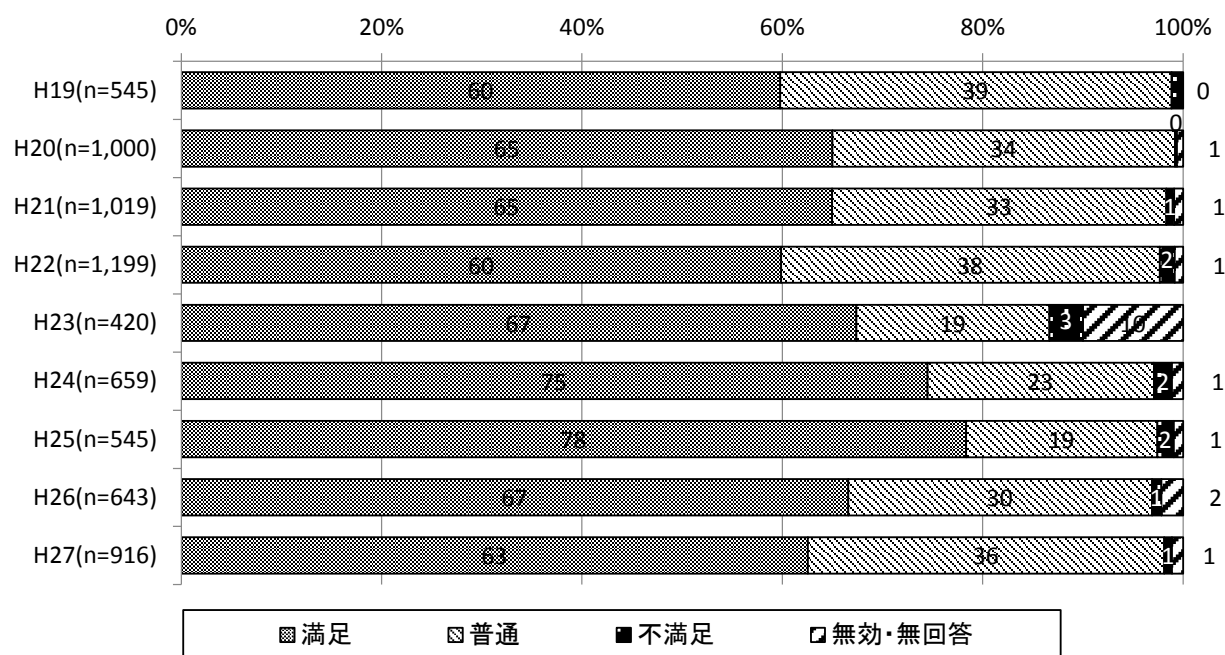
図表 36 事前レクチャーの時間の長さに対する評価



(2) 内容 [SA]

- 平成 27 年度における事前レクチャーの内容については、「満足」が 62.6%と最も多く、「普通」が 35.6%、「不満足」が 0.8%となっており、概ね満足度は高いと言える。

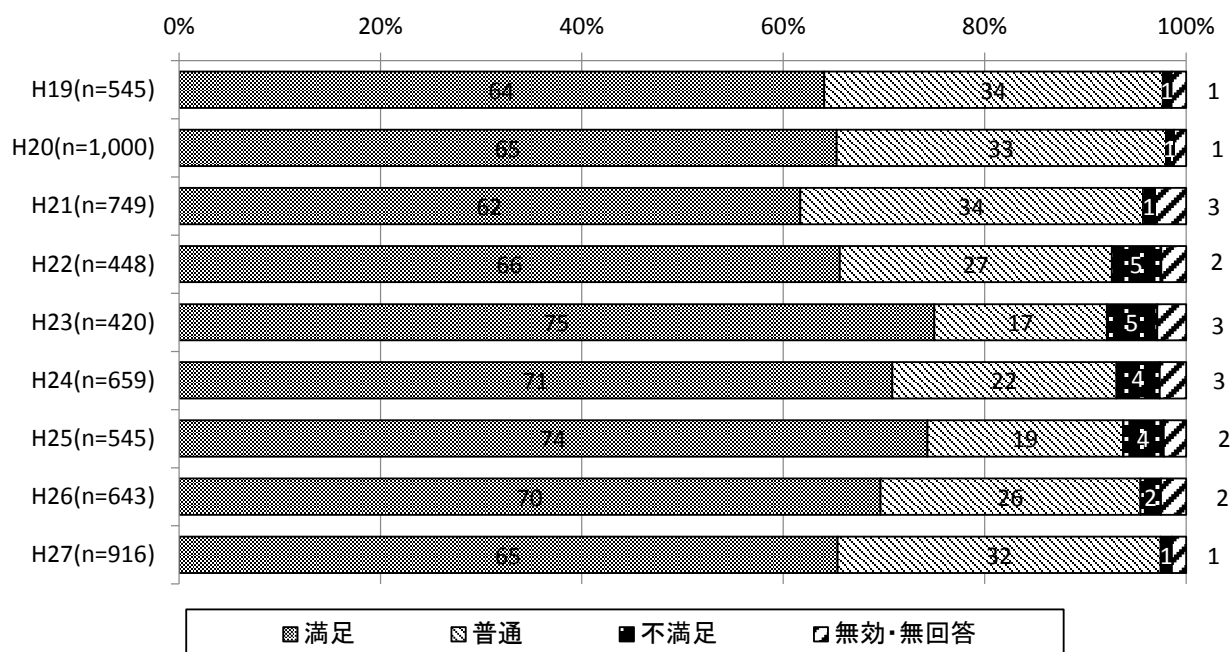
図表 37 事前レクチャーの内容に対する評価



(3) 配布冊子 [SA]

- 平成 27 年度の配布冊子の内容については、「満足」が 65.4%と最も多く、「普通」が 32.1%、「不満足」が 1.1%となっており、概ね満足度は高いと言える。

図表 38 事前レクチャーの冊子内容に対する評価



(4) レクチャーの内容や配布冊子について不満の理由・改善すべき点 [FA]

- 平成 27 年度のレクチャー内容について「不満」と答えた利用者のうち、不満な点あるいは改善すべき点については下記（図表 39）にとりまとめた。
- なお、また平成 27 年度の配布冊子について、「不満」と回答した利用者の中で、具体的な理由を挙げた者はいなかった。

図表 39 レクチャー内容の不満点等についての自由記述（抜粋）

項目	自由記述
講義内容・方法	・レクチャーの目的が明確でない ・ガイドの案内がなかった。 ・ルートが解説が不十分 ・重要なポイントについて、丁寧な説明が必要
	レクチャーの際、ガイドがいるからとコースの説明が省かれたが、ガイドから説明もなく、10名グループの後方だとただついていだけになるので省かないでほしい。パソコンが故障で開始時間が遅れた。開始時間前にチェックすべきでは？
	今回のレクチャーでは、ない方がましです。ガイド誌の方が役に立つと思います。ガイドの方がまだまだ理解していないように思われます。内容を充実して下さい。
	トイレの使用法がわからなかった。
	内容をもっと充実した方が良いと思います。冊子の内容を読みあげるだけではない方がましだと思います。誓約書に署名をさせるとか・・・
	レクチャーの人は人前で話すにもかかわらず、漢字の読み間違いがあり、言葉遣いがいまいちでした。

(5) その他ご意見 [FA]

- ・ レクチャーの時間割等についてのその他の自由意見は下記のとおりであった。

図表 40 レクチャーについての自由記述（抜粋）

項目	自由記述
レクチャー ／講義内容	今回は 2 人だけでレクチャーを受けることができ、いろいろとアドバイスを頂けたので、とても満足しました。
	レクチャーを受けさせていただいたおかげでルートも気をつけることもよくわかり、楽しく西大台を楽しむことができました。ありがとうございました。
	係の女性職員の方が大変気さくに分かりやすくご説明して下さいました。職員の方が西大台をこよなく愛しておられるお気持ちがこちらにも伝わり感激いたしました！！
	・ トイレは事前に必ず済ませておくこと ・ くつは必ず登山用のくつかトレッキングシューズをはかなければならない ⇒強く言うべき
	トイレの説明をもう少し詳しく聞かせてもらえると嬉しかったと思います。
	訪れた季節ならではの「見どころ」「植物種」などについての説明がなかったのが残念。レクチャーが注意ばかりで改善の点あります。
	今の季節の植物（今なら、きのこなど）についてスライドで説明してもらえともっとよかった。冊子には載っていないものもありましたので。
	講師の話し方が子供に対する話し方のように聴き辛い点があった。何故もっと普通に喋られないのか、少し不愉快だった。
レクチャー ／講義時間 ・タイミング	夏場は日中暑いので、開始時間が早い時間があると良いと思いました。
	7:00 から開始していただければありがたいです。なるべく朝早い時間帯の気を感じたいので。あるいは予め冊子でレクチャーを前もって受ける、インターネットでレクチャーを受けておくことができれば、入力をもっとスムーズになるのではないのでしょうか。
	バス日帰りの時間がきつい
	30 分毎であれば、利用しやすいと思います（交通の便に遠くて時間がかかるため到着した時に随時開始してもらってよかった。
	随時開催されればベスト
	決め細かく時間割があり、良かったと思います。
	ビデオ等にして来たらすぐにみれるようにしてもらえたらありがたい（時間をきめない）
	8:30 から開始していてちょうど良かったです
	前日にレクチャーを受けることができ、当日は朝から西大台に行くことができ大変良かった。
	お昼の時間もやってもよいと思う。職員方には負担かもしれないが、実際 4 時間弱で回れたためです。
	東大台を歩いた後、4 時半からもあれば助かります。
	午後にもう 1～2 回回数があればなお良い
	東大台の探勝に時間が掛かる場合もあるので、一回一回の間隔を広くするなどの工夫をして、より遅い時刻まで実施して欲しい。
	回数が増えたら選択肢は増えて利用者には良いですが、様々考え合わせると、回数増は難しいのかな？と思います。
レクチャーの開始時刻を許可証送付時に教えていただけると計画が立てやすいです。	
レクチャー ／費用・決済	入山料、1,000 円は高い 屋久島でも 250 円？位
	カード決済が出来るようにして欲しい
冊子／内容	地図の記述が不明瞭で、散策途中の位置がわかりにくい。
	その時見られる花や、鳥などの説明ももっと多く入れたら良い
	どのパンフレットにも大台ケ原に咲くしゃくなげの紹介がない。一応トンネル状態の所がある。大台ケ原には咲くところがないと思っている人が結構多いです。

図表 40 レクチャーについての自由記述（抜粋）（続き）

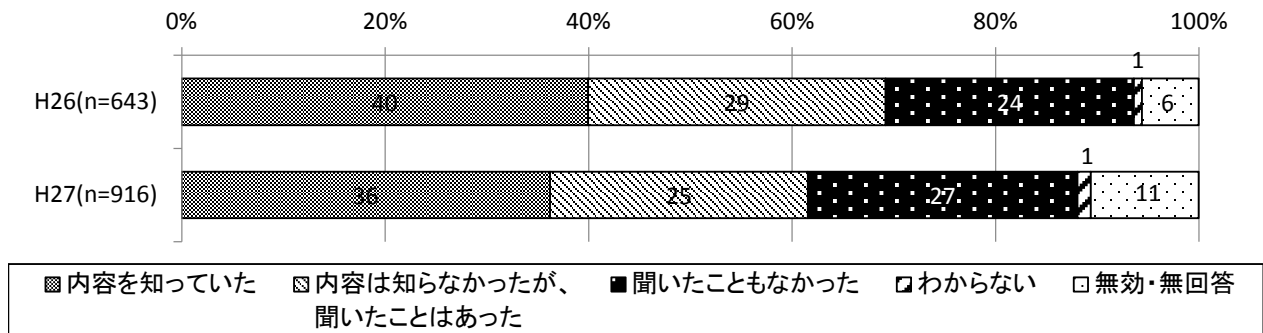
コース／ 表示等	右まわりのルート最初の頃の標識がもう少しあるとよかった。迷いそうになったので、写真でルートがあると良かった。
	トレイルの途中にももう少し表示がほしい。
トイレ	トイレの設置、2 か所位に設けてほしい。木材チップによる無臭トイレ（有料）を設置しないと結局放尿による自然環境の破壊につながる。使用したチップはそのまま利用できるのではないだろうか。
	簡易トイレの携帯包装の工夫が欲しい。（ザックの外に付帯される工夫と他人から見て、排尿・排便袋と触らないようにしてほしい）
その他・感想	入山手続きが如何雑すぎるように思います。
	今のままで十分です
	申込制・人数制限の効果で自然が守られていると感じた

4. 西大台利用調整地区制度の認知について

(1) 利用調整制度の認知度 [SA]

- ・ 利用調整制度について平成 27 年度利用者における事前認知の状況は「内容を知っていた」が最多となり（36.2%）、次いで「聞いたこともなかった」であった（26.5%）。

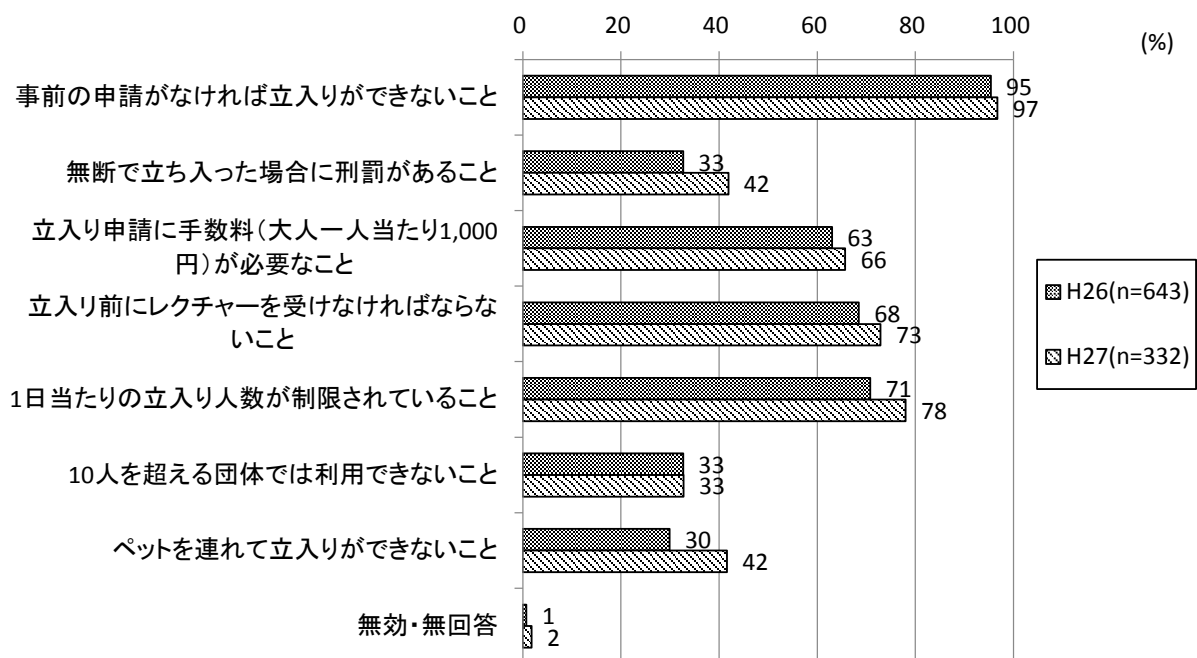
図表 41 西大台利用調整地区制度に対する認知度



(2) 利用調整制度の詳細に関する認知 [MA]

- ・ 上記設問で「内容を知っていた」と回答した利用者を対象に、利用調整制度の詳細に対する認知を尋ねたところ、平成 27 年度は、認知の多い項目から順に「事前の申請がなければ立入りができないこと」（96.7%）、「1 日当たりの立入り人数が制限されていること」（78.0%）、「立入り前にレクチャーを受けなければならないこと」（72.9%）であった。
- ・ 「無断で立ち入った場合に刑罰があること」や「ペットを連れて立入りができないこと」については前年度に比べて認知度が約 10%ポイント増加している。

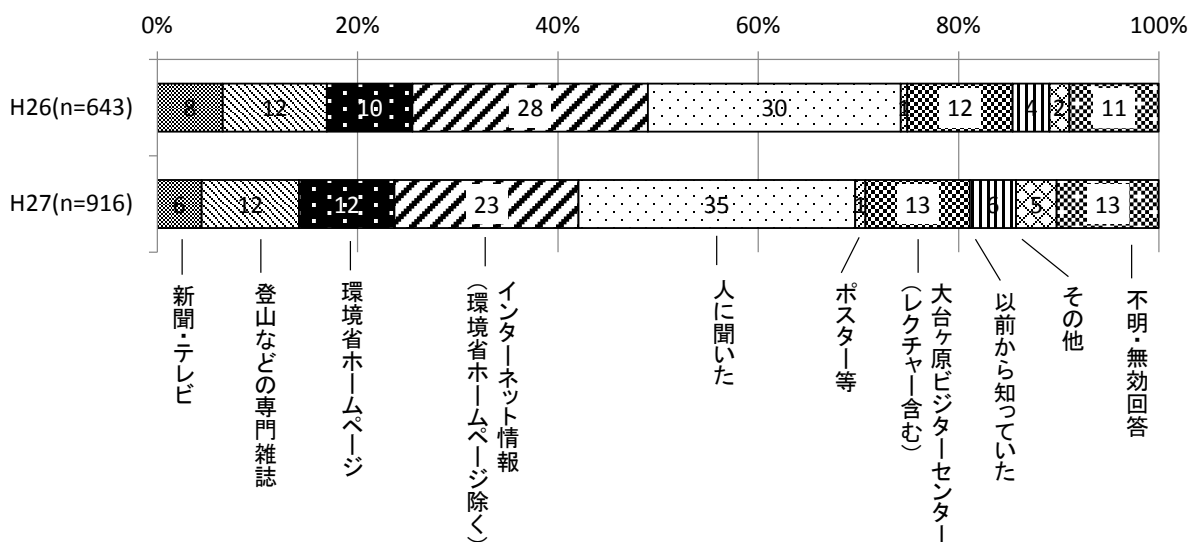
図表 42 利用調整制度の詳細に対する認知



(3) 制度を認知した情報媒体 [MA]

- ・ 利用調整制度を認知した情報媒体としては、「人に聞いた」が最多であった（34.7%）。次いで「インターネット情報（環境省ホームページを除く）」（23.1%）、「大台ヶ原ビジターセンター」（13.1%）であった。

図表 43 利用調整制度を認知した情報媒体

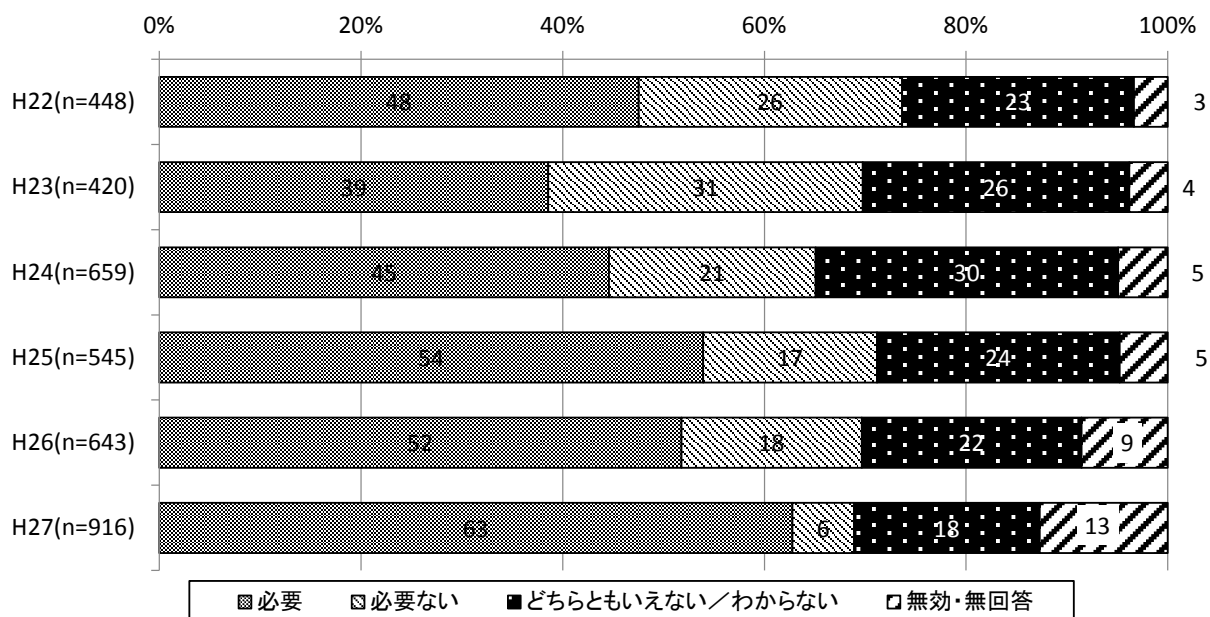


5. 西大台利用調整地区の利用について

(1) 携帯用トイレブースの設置に対する意見 [SA・FA]

- ・ 西大台利用調整地区における携帯用トイレブースの設置については、「必要」が62.8%、「必要ない」は6.1%であった。
- ・ 「必要」と回答する割合は、前年度比で約10ポイント以上増加している。

図表 44 携帯トイレブース設置の必要性



図表 45 携帯用トイレブースに関する自由記述（抜粋）

項目	自由記述
必要	高齢になるとトイレが近くなるので、ぜひ設置してほしいです。
	1ヵ所はやはり設置があれば安心です
	今のまま置いてくれたらいいと思う
	今日は利用しなかったが、必要だと思う
	東大台にもあると良い
	あちらこちらにするよりはこっちの方が良いし自然に対する配慮でもあり女性の入山者にも良いと思います。
	今回は利用しませんでした。登山用の携帯トイレ用品を常に準備していますが、グループの場合、目隠しスペースがあると、大変助かります。5時間の長時間であり、年齢が高くなると辛くなり、楽しめません。ビジターセンターに携帯トイレ用品がある事は、事前に情報がありませんでした。
	自分は使わなかったが、あると便利。自然保護上もトイレの問題は大きいので、対策の1つとして良いと思う。
	絶対必要です。グループで参加しましたが、多数の人がトイレが必要でした。料金を取ってでも設置することが自然を守ることに繋がります。
	女性の場合はあると助かります。今回黒のポンチョと携帯トイレを持って出かけたが開拓跡のブースを使用させて頂きました。回収ボックスもビジター横に置かれており良かったです。
不要	東西を結ぶ所にビジターセンターのトイレあるため時間的に不自由がありませんので不要では、
	ちょっと使うためらう。
	人を入れるなら必要だが、トイレを作ってまで人を入れる必要があるのか？自分で簡易トイレをもってこさせる（携帯用）おむつでも可
	いっそのことない方がいいと思う
	実際にあれば便利だが、どのくらいの利用者がいるのか疑問だ。慣れていない人だと利用しづらい。(私も含め)
	トイレブースでなくトイレを設置してほしい
利用方法の周知	トイレの処理が面倒（持って散策するのはきつい）なので利用しない
	トイレはほしいですが、使い方が、経験ないので分からず使いにくく利用できない。
	説明手順に丸い入れ物から携帯トイレキットを取り出す図がなかったことから、キットを探し回った。使用後、丸い入れ物へ収容するだけと誤解されるので改善して欲しい。
	使用方法が入山前に人に充分伝わっていないのではないか。ビジターセンターや、ネットで確認する人には伝わると思うが旅行雑誌等には詳しい説明がないように思う。このような人にはレクチャー時に十分な説明が必要でしょう。少し雨にいましたが、自然の姿を少人数で貸し切り状態で楽しめました。機会があれば又、来たいと思います
	入山レクチャー時にトイレ利用方法について説明必要（自分で携帯の必要あり）
トイレについての情報があまり前もって得られませんでした。前もって携帯トイレが持参必要だということをもう少しアナウンスしてほしいです。トイレブースも、水洗トイレかと思っていました。仮申し込みの時点で注意事項の記載は読みましたが、トイレ状況についてのアナウンスはなかったように思います。知人のアドバイスで1人1つ携帯トイレを持参して事無きを得ました。	
利用したいが、後、自身で持ち歩くことでためらっている方がいた。また、携帯用トイレの使用方法がわからない方もいた。	

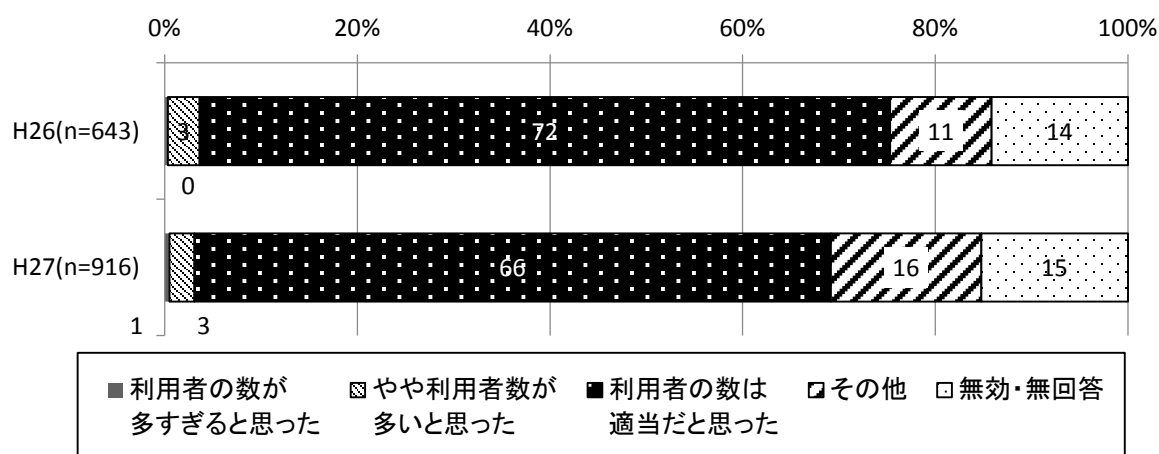
図表 45 携帯用トイレブースに関する自由記述（抜粋）（続き）

トイレの スペック	きれいだとうれしい
	バイオトイレというものもあるのでお金があればそれがよいと思います。水、電気必要なし。
	女性（子ども）が安心して利用できる雰囲気があればいいです（ルートから少しはずす等）
	利用するのがむずかしかったので駐車場までがんばりました。もう少し女性でも恥ずかしくない工夫があればと思います。
	荷物があるのでもう少し大きい荷物スペースがあれば、うれしい。
	男子小便専用ブースが欲しい
	もう少し別の場所にあればいいと思う。
	便座が木よりはプラスチックの方が女性にはうれしい。湿った上に虫がついているのはちょっといや（我慢できるけど、山だし）
	生理的なものですからトイレはもう少し使い易い物を設置すべきだと思います。
	普通のトイレを設置して欲しい。入山料を値上げしても良いので。
	中継地点と考え、自然に溶け込むような女性目線の設備を考えてはと思った。
その他	トイレと気づかなかった
	あのトイレブースは利用しているのだろうかと思う。
	きれいで気持ちよく使えた
	思ったよりきれいだった。でも、利用するのは・・・少し考えてしまう。
	ネットでは「なし」と記載されていたが、あったので助かった。
	携帯トイレは各自用意していくようにした方が良いのではないのでしょうか？ブースは助かります。傘が広げてありましたが何故だったのでしょうか？
	トイレブースがあるのに、携帯用トイレの販売が見られなかったのが不思議だった。（回収があったのに）
	入山料を高くして、必ず携帯用トイレを配布してはいかがですか。はじめからわたすと使ってくれると思う。それがいやならば入山しなければいいと思う。

(2) 利用時における混雑度の印象 [SA]

- ・ 西大台利用調整地区のルート歩いた際の混雑感については、「利用者の数は適当だと思った」が最多であった(66.0%)。
- ・ 「利用者の数が多すぎると思った」と回答した利用者(N=5)に、そう感じるに至った、出会った人数を尋ねたところ、「11~15人」「26~30人」が各2名であった。また「やや利用者数が多いと思った」と回答した利用者(N=24)を対象に、そう感じるに至った、出会った人数を尋ねたところ、「16~20人」「26~30人」「36~40人」が各4名であった。

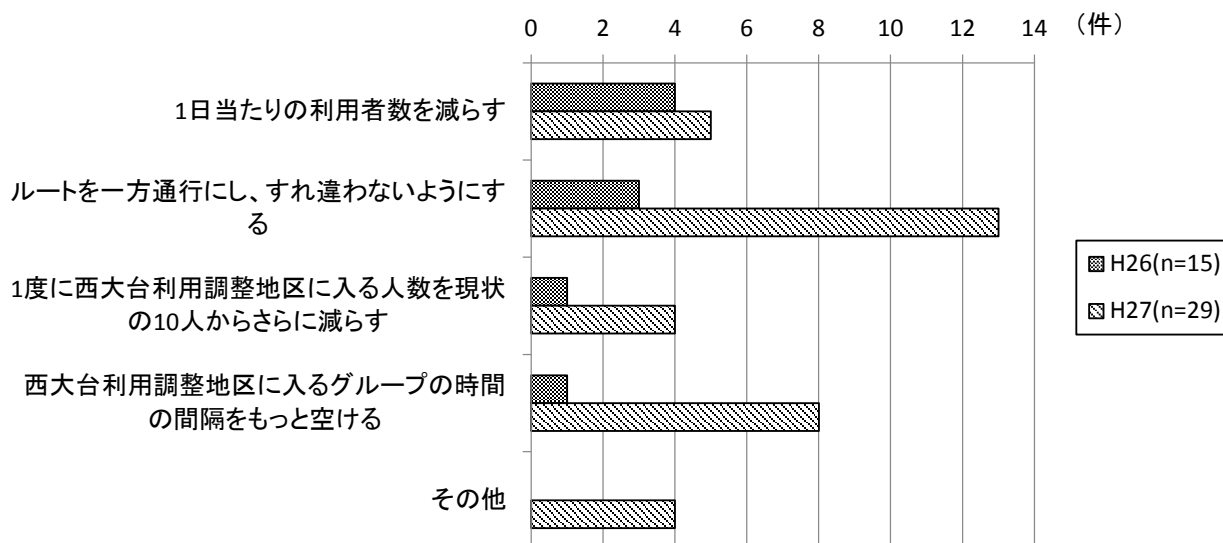
図表 46 利用時における混雑度の印象



(3) 混雑対策に対する意見 [SA]

- ・ 次いで、「利用者の数が多すぎると思った」あるいは「やや利用者数が多いと思った」と回答した利用者(N=29)を対象に、混雑を感じないようにするための対策を尋ねたところ、「ルートを一方通行にし、人とすれ違わないようにする」が最多であった(13名)。

図表 47 混雑対策

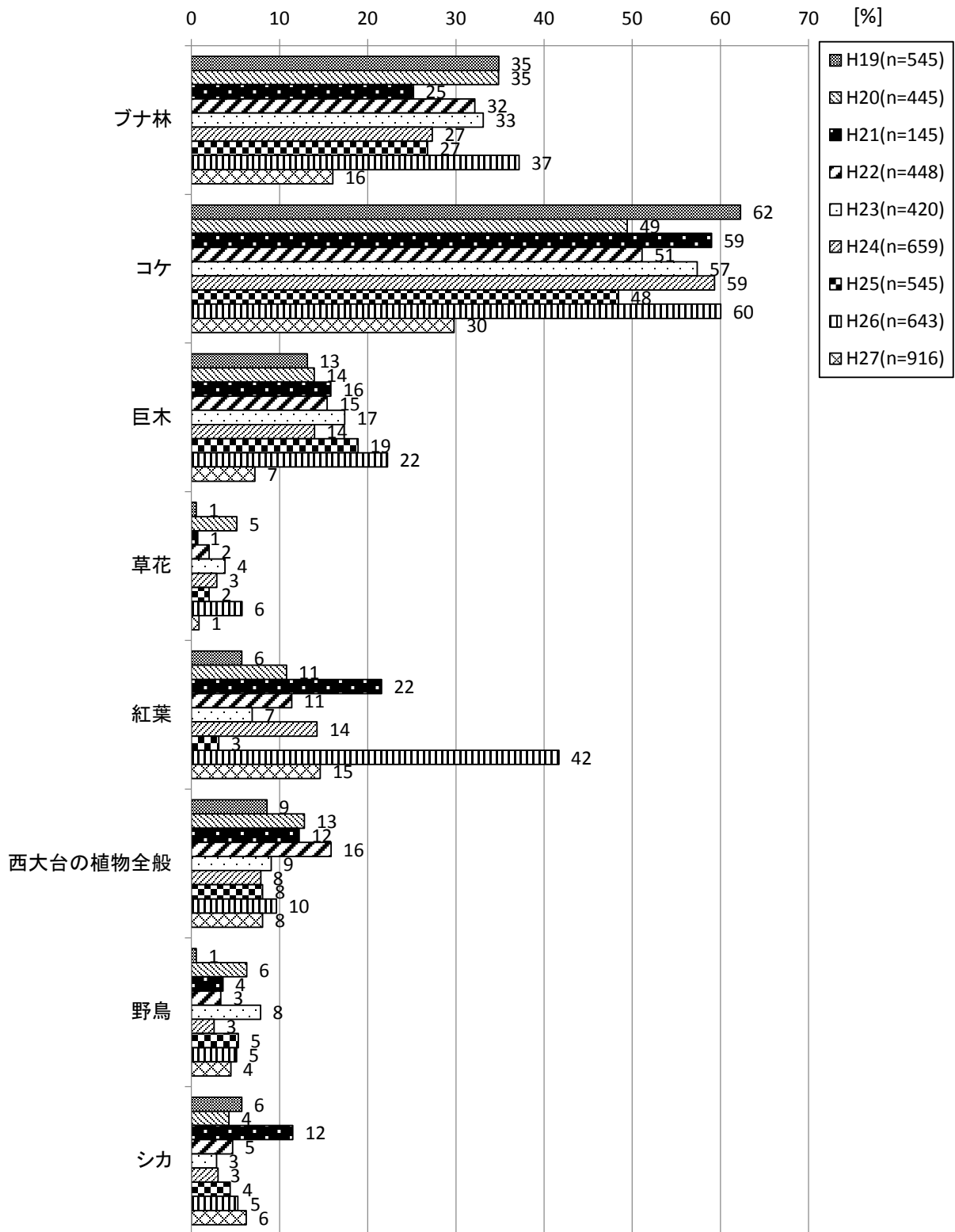


(4) 西大台利用調整地区の利用時に期待していたもの及び感想 [FA]

① 期待していたもの

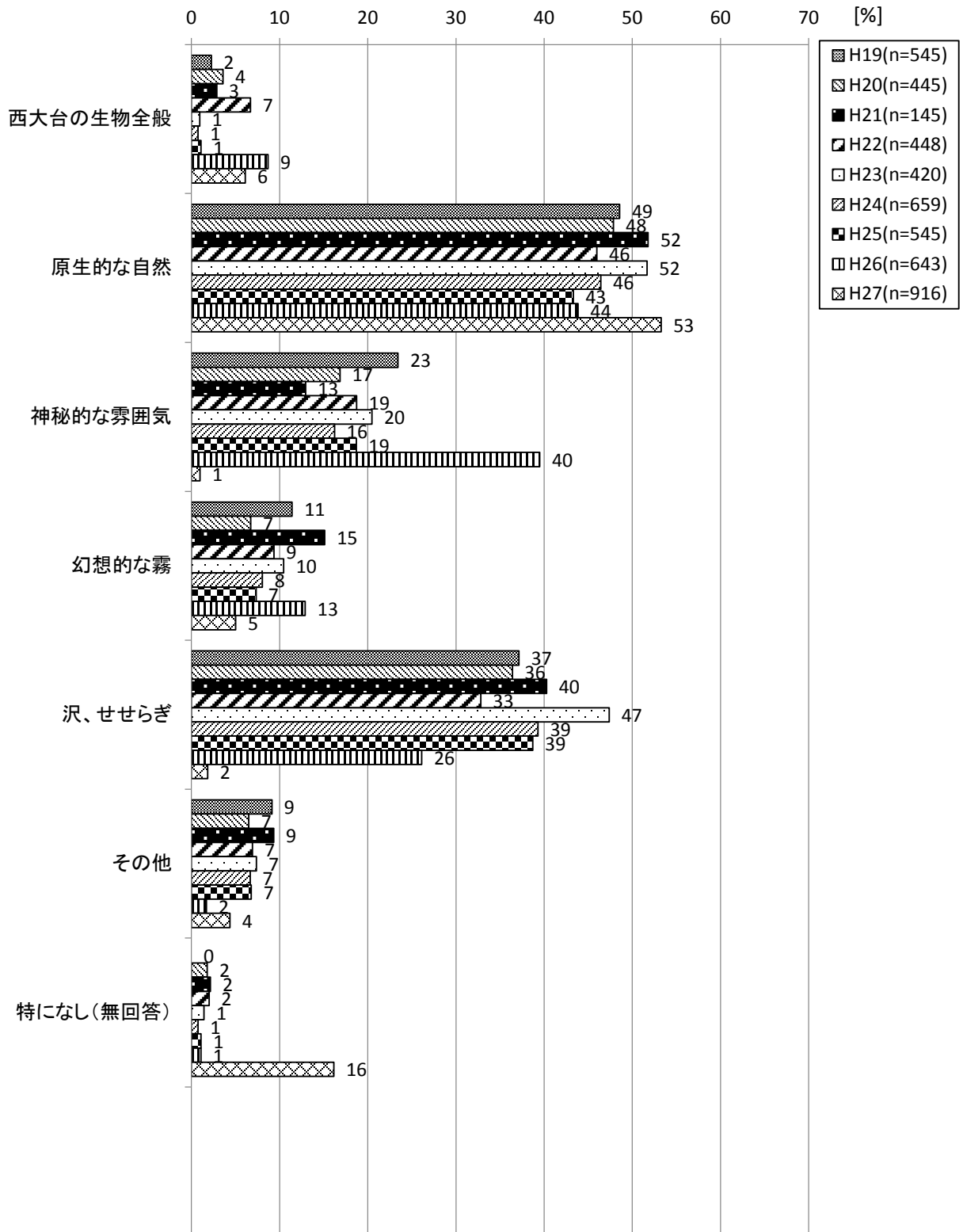
- ・ 西大台利用調整地区への来訪にあたり、期待していたものについて尋ねたところ、「原生的な自然」が最も多く（53.3%）、次いで「コケ」（29.8%）、「ブナ林」（16.0%）であった。

図表 48 期待していたもの¹²



¹² 平成 19 年度～平成 26 年度は選択式の回答、平成 27 年度は自由記述式の回答

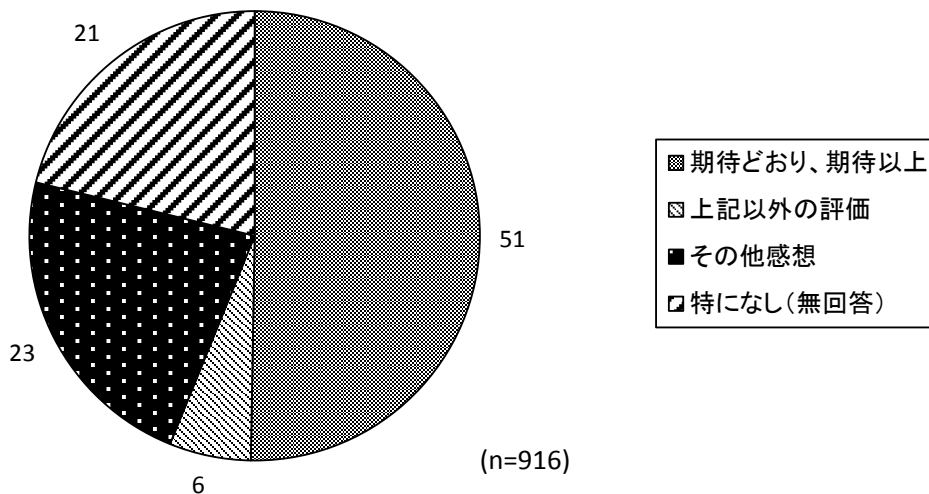
図表 48 期待していたもの（続き）



② 感想

- ・ 「期待どおり」あるいは「期待以上」と回答した利用者が最多であった（50.5%）

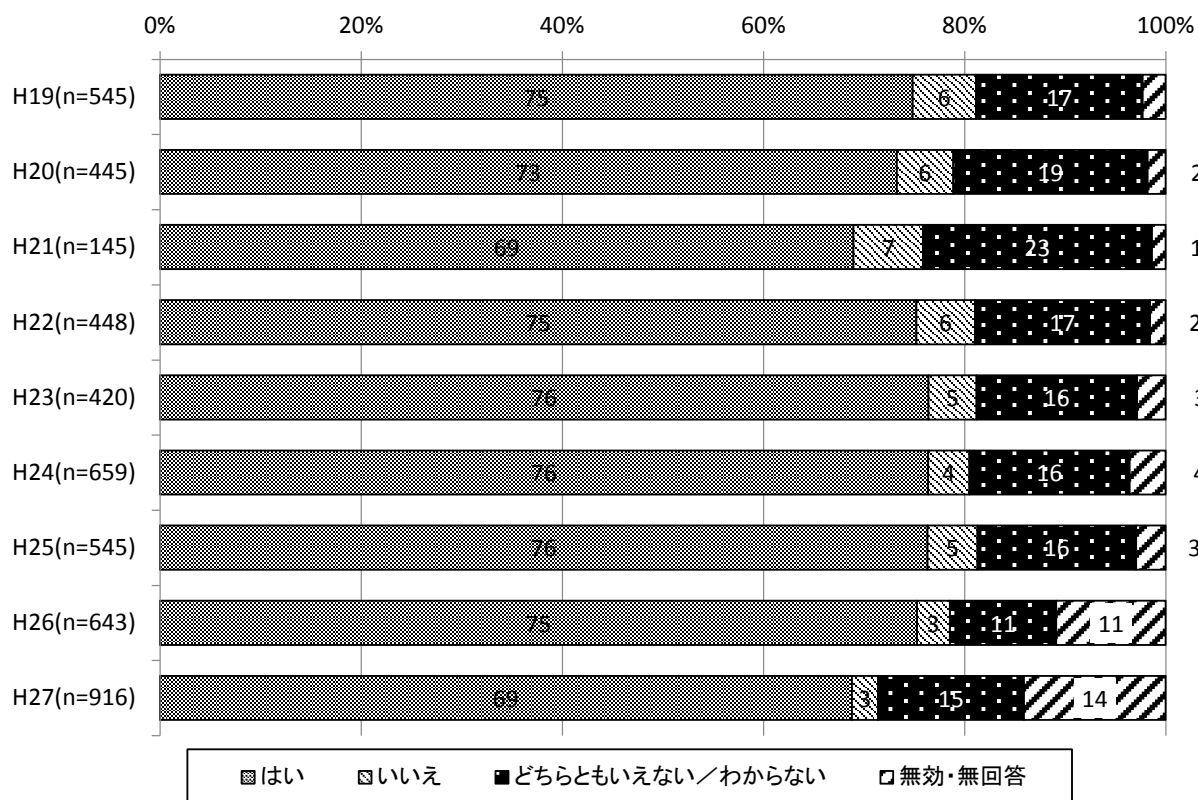
図表 49 感想



(5) 西大台利用調整地区の再訪意思 [SA]

- ・ 平成 27 年度利用者について、西大台利用調整地区への再訪の意思を尋ねたところ、「はい」（68.8%）が最多となり、次いで「どちらともいえない／わからない」（14.5%）であった。

図表 50 西大台利用調整地区への再訪の意向

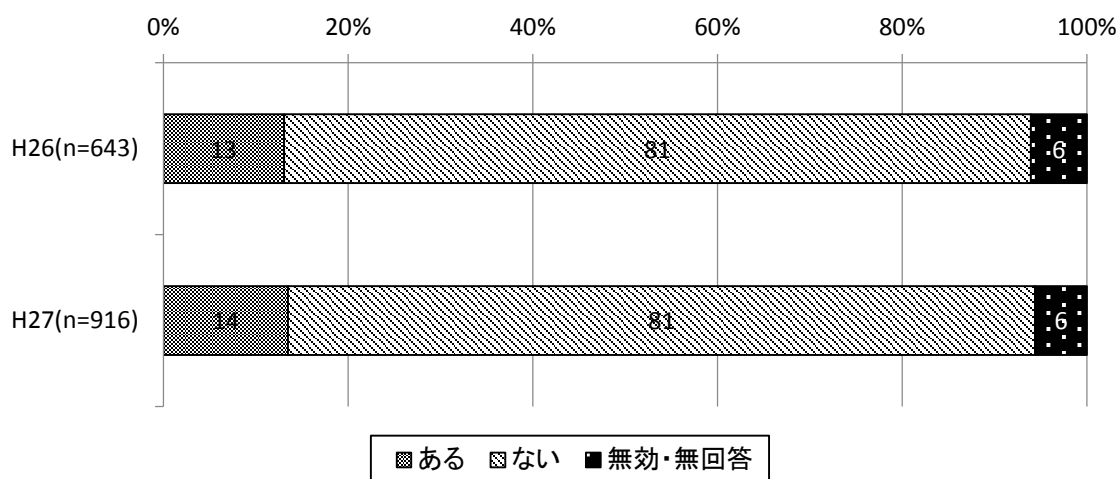


6. ガイド利用について

(1) ガイド利用の経験の有無 [SA]

- 平成 27 年度利用者において、今回も含めて、大台ヶ原でガイド付きの山歩きや登山をした経験について尋ねたところ、利用したことが「ある」が 13.5%、「ない」は 80.9%であった。

図表 51 ガイド付きの山歩き・登山の経験



- 大台ヶ原でガイドを利用したことがない理由については、「一人で歩きたい」が最多となり (17.0%)、次いで、「ガイドがあることを知らなかった、考えたことがなかった」(15.0%) であった。

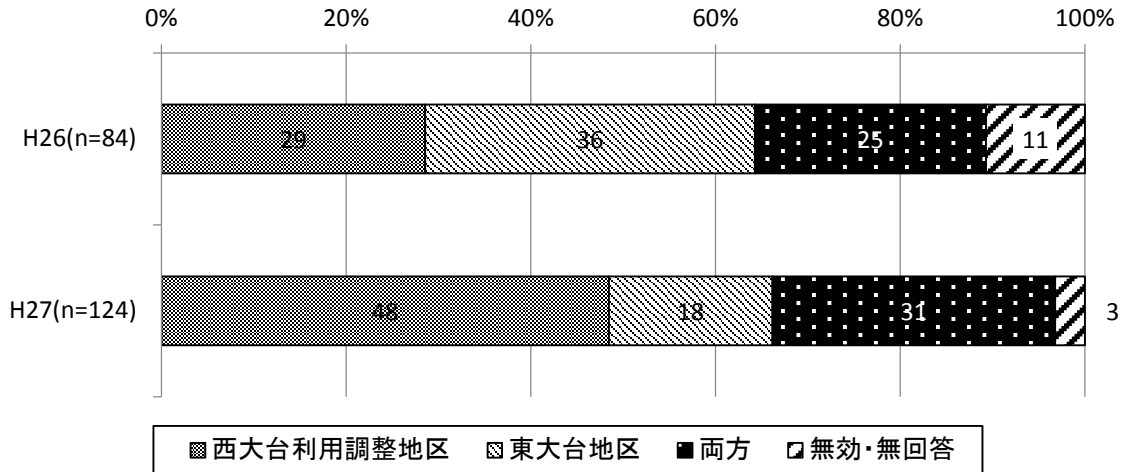
図表 52 ガイドを利用したことがない理由 (抜粋)

No.	カテゴリ	実数	%
1	一人で歩きたい	126	17.0
2	ガイドがあることを知らなかった、考えたことがなかった	111	15.0
3	必要ないから	46	6.2
4	グループ・家族で来ているため	43	5.8
5	特に理由はない	30	4.0
6	機会がなかった	20	2.7
7	料金が低い	14	1.9
8	同行者に知識のある人がいるため	12	1.6
9	知識・経験を有するため	11	1.5
10	上記以外	86	11.6
	無回答	289	39.0
	計	741	

(2) ガイド利用時に訪問した場所 [SA]

- ・ 大台ヶ原でのガイド利用経験のある方に利用場所を尋ねたところ、平成 27 年度利用者については「西大台利用調整地区」が最多となり (48.4%)、次いで「両方」であった (30.6%)。

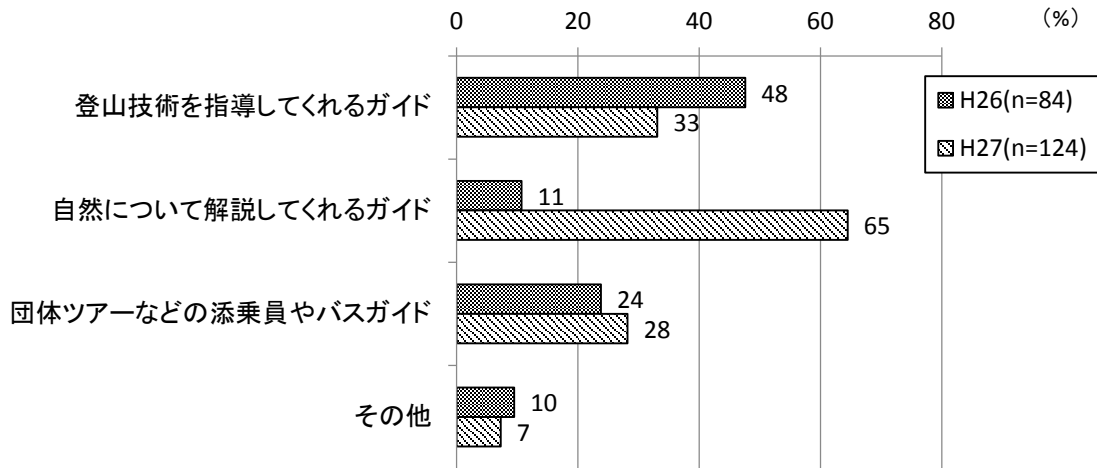
図表 53 ガイド付きの山歩き・登山をした場所



(3) ガイド利用時のガイド内容 [MA]

- ・ 平成 27 年度の利用者において、大台ヶ原でガイドを利用した際のその内容は、「自然について解説してくれるガイド」が最多であった (64.5%)。次いで「登山技術を指導してくれるガイド」 (33.1%)、「団体ツアーなどのバスガイド」 (28.2%) であった。

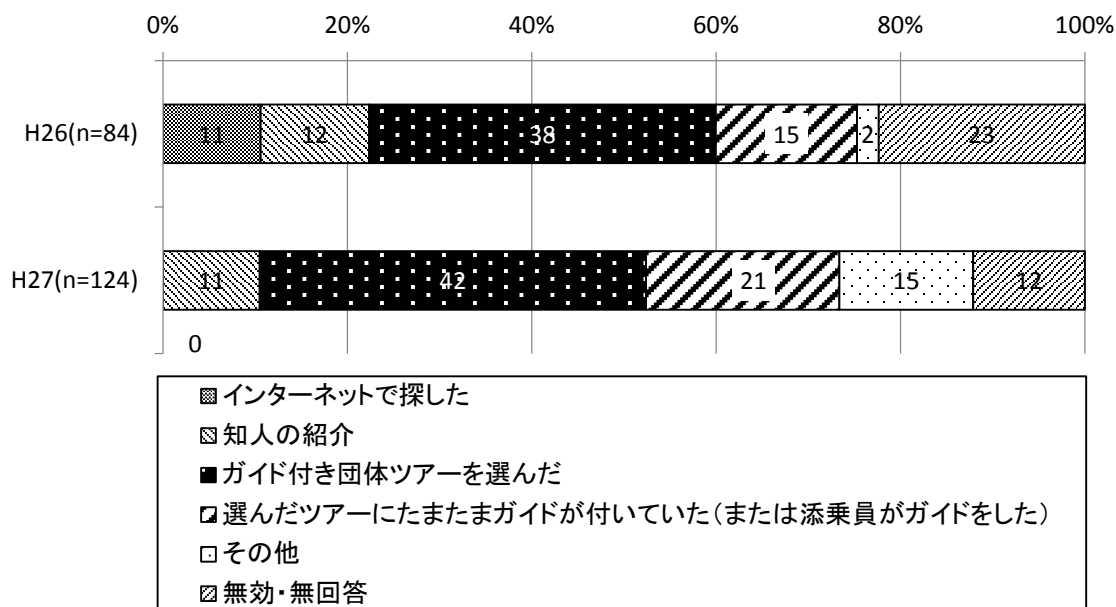
図表 54 ガイドの内容



(4) ガイドを選んだ経緯 [MA]

- ・ 大台ヶ原でガイド利用経験のある平成 27 年度利用者が、そのガイドを選んだ経緯については、「ガイド付き団体ツアーを選んだ」が最多であった（41.9%）。

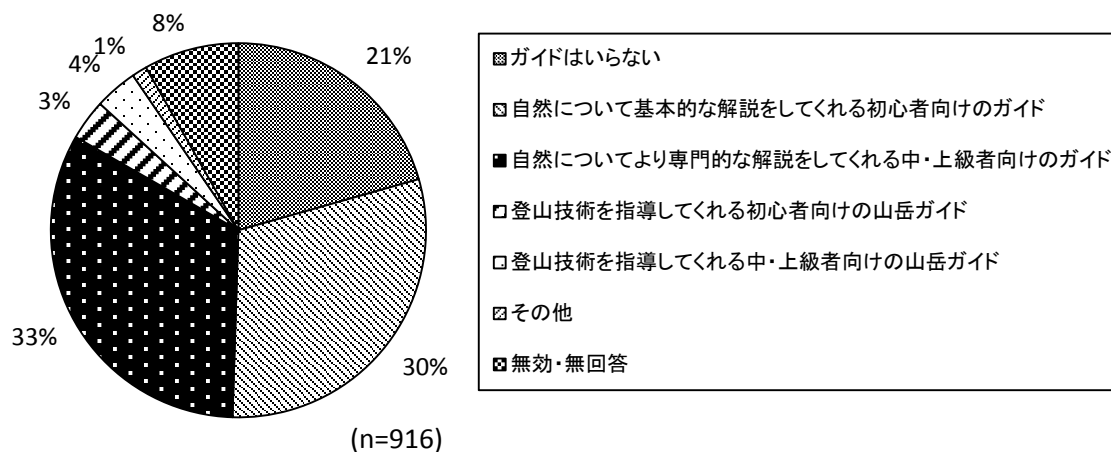
図表 55 ガイドを選んだ経緯



(5) 希望するガイド [SA]

- ・ 大台ヶ原でガイドを利用するとした場合に、平成 27 年度の西大台利用調整地区利用者が希望するガイドは「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」が最多であった（32.8%）。次いで「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」であった（29.9%）。一方で「ガイドは要らない」とする利用者は 20.6% を占めた。

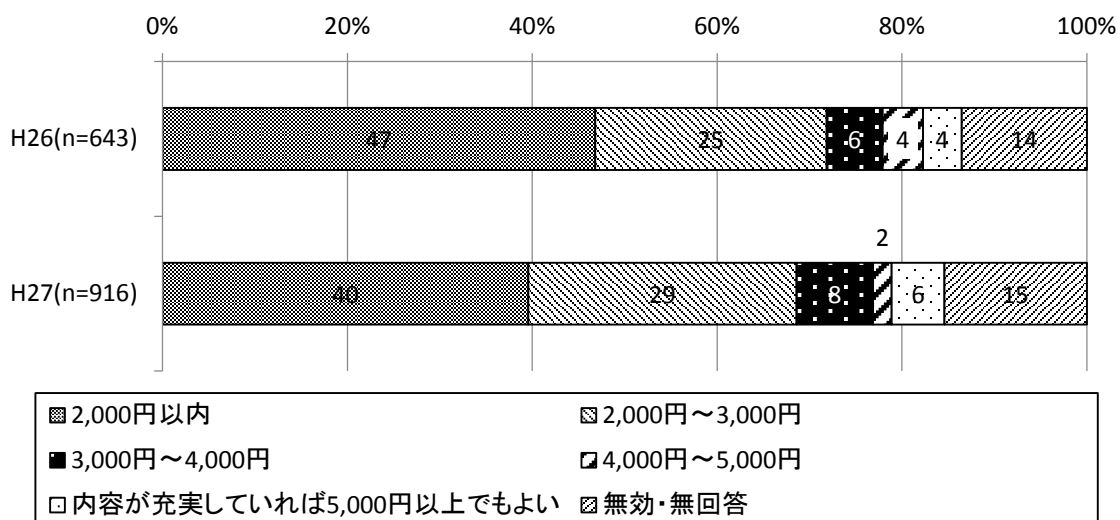
図表 56 希望するガイド（大台ヶ原で利用する場合）



(6) 支払可能なガイド料金 [SA]

- ・ 大台ヶ原でガイドを利用するとした場合に、利用者一人当たり支払ってもよいガイド料金を尋ねたところ、平成 27 年度利用者は「2,000 円以内」が最多となり（39.6%）、次いで「2,000 円～3,000 円」であった（29.0%）。一方、「内容が充実していれば 5,000 円以上でもよい」は 5.7%であった。

図表 57 支払ってもよいガイド料金（大台ヶ原でガイドを利用する場合）



IV. おわりに

吉野熊野国立公園の核心地域の一つである大台ヶ原について「大台ヶ原自然再生推進計画 2014」に基づき、自然環境への負荷の軽減及び自然体験学習の提供等を可能にする新しい利用のあり方の確立に資するため、本調査では、大台ヶ原の利用動向に関する分析ならびに西大台利用調整地区の利用者を対象とした意見聴取の実施を通じて、大台ヶ原の利用状況に関する基礎的なデータ等の収集・分析を行った。

各実施結果の概要は次のとおりである。本結果をもとに大台ヶ原の利用方法について検討され、自然再生に取り組む大台ヶ原への適切な理解と利用が促進されることが期待される。

図表 58 大台ヶ原の利用動向に関する分析 結果概要

- | |
|---|
| <p>① 大台ヶ原の利用動向</p> <ul style="list-style-type: none">・大台ヶ原の利用者数は平成 23 年度から 5 年間は微増傾向にある。・月別の利用者数のピークは 5 月および 10 月であり、過去 8 年間で大きな変化はない。・さらに、5 月と 10 月の利用状況から、利用者数を左右する要因について、今回は天候と連休日数で分析を行ったが、これらの要因だけでは結論づけられないことが伺われた。天候や連休日数以外の要因を含めてさらに検討する必要がある。・大台ヶ原への路線バスの乗客人数は平成 22 年以降増加傾向にあり、平成 27 年度は過去 13 年間で最多となった。 <p>② 西大台の利用動向</p> <ul style="list-style-type: none">・利用調整地区制度の運用開始以降、認定者数および入山者数は増加傾向にあり、平成 27 年度の認定者数および入山者数は過去最多であった。・西大台の利用状況についても大台ヶ原と同様に分析を行ったが、天候や連休日数だけでは結論づけられないことがわかった（本地区は制度上、入山日の予約をしているため、雨天であっても入山するものが一般の山に比べて高い傾向にあると考えられる）。 |
|---|

図表 59 西大台利用調整地区の利用者を対象とした意見聴取の実施 結果概要

- | |
|--|
| <p>[全般]</p> <ul style="list-style-type: none">・利用状況については例年の傾向と大きく変化はない。 <p>[携帯トイレブースに対する意見]</p> <ul style="list-style-type: none">・西大台利用調整地区における携帯用トイレブースの設置について必要と考える利用者は全体の 60%程度であり、前年度より増加した。・一方で、利用方法やトイレの処理の不便さについても意見が見られた。・このため、西大台利用調整地区の利用者の意見を踏まえながら運用方法等について継続して検討する必要がある。 <p>[ガイド制に対する意見]</p> <ul style="list-style-type: none">・西大台利用調整地区の利用者におけるガイドの利用状況については前年から大きな変化はない。・ガイドを利用するとした場合、「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」など自然の解説を行うガイドについてニーズが高かった。 |
|--|

以上

V. 参考資料

1. 西大台利用調整地区の利用に関する意見聴取票

西大台利用調整地区の利用に関する意見聴取票

入山日時：2015年 月 日 時頃から 時頃まで

I 基本的なことをお聞きします。該当するものに○をつけてください。

I-1 利用者情報など	性別：①男 ②女	年齢
	居住地(都道府県)：() (海外)：()	①10才未満 ②10代 ③20代 ④30代 ⑤40代 ⑥50代 ⑦60代 ⑧70才以上
	登山経験：①ガイド付き登山・トレッキング ②(ガイドなしで)本格的な登山経験あり ③里山の散策程度 ④ほとんどない	
	来訪目的：西大台利用調整地区に来られた主な来訪目的を、1つだけ答えてください。 ①登山・散策 ②写真撮影 ③生物の観察 ④自然とのふれあい ⑤その他()	
I-2 来訪を決めた時期	西大台利用調整地区の利用をどれ位前に決められましたか。1つだけお答えください。 ①本日～2週間前に決めた ②2週間～1か月前 ③1か月前～3か月前 ④3か月以上前から決めていた。	
I-3 団体ツアー・個人の別	今回のあなたの来訪形態について、1つだけお答えください。 ①旅行会社主催のツアー(主催者名を具体的に：) ②登山や自然観察のガイドツアー(主催者名を具体的に：) ③個人・グループ(計 人) ④その他()	
I-4 行程	今回、どのような行程で大台ヶ原に来られましたか。1つだけお答えください。 ①日帰り ②宿泊を伴う行程(宿泊場所：)	
I-5 来訪回数	これまでに大台ヶ原に来た回数 ()回※初めての場合は「0」です。	うち西大台地区に来た回数 ()回※初めての場合は「0」です。

II ビジターセンターで受けたレクチャーについてお聞きします。

II-1	レクチャーの受講日： 月 日
II-2 長さ	あなたは、レクチャーの時間の長さについて、どのように感じましたか。この中から1つだけお答えください。 ①長い ②ちょうどよい ③短い
II-3 内容	あなたは、レクチャー内容について、どのように感じましたか。この中から1つだけ選んでください。 ①満足 ②普通 ③不満
II-4 配布冊子	配布した冊子「西大台利用調整地区ガイド」の内容について、どのように感じましたか。 ①満足 ②普通 ③不満
II-5 不満の理由等	上記のII-3、II-4で「不満」と答えた方は、不満な点、改善すべき点などを、具体的にお書きください。 ()
II-6 その他ご意見	レクチャーの時間割(開始時刻など)について、ご意見等あればお書きください。 ()

IV-2-1 西大台利用調整地区のルートを歩かれた際、あなたはどの程度混雑さを感じられましたか。
この中から1つだけお答えください。

- ①利用者の数が多すぎると感じた。→ 概ね何人の人に出会ってそう感じましたか (人)
②やや利用者が多いと思った。→ 概ね何人の人に出会ってそう感じましたか (人)
③利用者の数は適当だと思った。→ 概ね何人の人に出会ってそう感じましたか (人)
④その他具体的に: ()

IV-2-1で①、②を選んだ方のみお答えください。

IV-2-2 あなたは、西大台利用調整地区のルート上で混雑を感じないようにするためにどのようにすれば良いとお考えですか。この中からいくつでもあげてください。

- ①1日当たりの立入人数を減らす。
②ルートを一方通行にし、人とすれ違わないようにする。
③1グループの人数の上限を現状の10人からさらに減らす。
④西大台利用調整地区に入るグループの出発時間の間隔をもっと空ける。
⑤その他 ()

IV-3 あなたは、今回、何を期待して西大台利用調整地区に来られましたか。
具体的に記入してください。

例: ブナ林、巨木、コケ、紅葉、野鳥、シカ、原生的な自然等、幻想的な霧

[]

期待どおりだったのかどうか、その理由を含めてお聞かせください。

例: 期待以上であった。期待どおりであった。あまり良くなかった。期待はずれだった。

[]

IV-4 あなたは、西大台利用調整地区をまた訪れたいと思いますか。この中から1つだけお答えください。

- ①はい ②いいえ ③わからない

V 西大台では、大台ヶ原の自然・文化等を解説したり、自然環境に配慮しながら安全に案内してもらえる「ガイド付きの立入り」が推奨されています。ガイド利用についてご意見等をお聞かせください。

V-1 今回も含め、あなたはこれまでに大台ヶ原でガイド付きの山歩きや登山をしたことがありますか。
① ある ② ない (理由を聞かせてください：例えば料金が高いから、一人で歩きたいからなど)

[]

「①ある」を選んだ方のみ

V-1-1 上の質問で「ある」と答えた方にお聞きします。西大台利用調整地区、東大台地区のどちらでガイド付きの山歩きや登山をされましたか。

① 西大台利用調整地区 ② 東大台地区 ③ 両方 (①と②)

V-1-2 また、その際のガイドについて以下からあてはまるものをすべて選んでください。

① 登山技術を指導してくれるガイド ② 自然について解説してくれるガイド
③ 団体ツアーなどの添乗員やバスガイド
④ その他
(具体的に：)

V-1-3 ガイドを選ばれた経緯を以下からあてはまるものを選んでください。

①インターネットで探した ②知人の紹介
③ガイド付き団体ツアーを選んだ
④選んだツアーにたまたまガイドが付いていた (または添乗員がガイドをした)
⑤その他 (具体的に)

V-2 あなたは、大台ヶ原でガイドを利用するとすれば、どのようなガイドを希望されますか。
この中から1つだけ選んでください。

① ガイドは要らない
② 自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド
③ 自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド
④ 登山技術を指導してくれる初心者向けの山岳ガイド ⑤登山技術を指導してくれる中・上級者向けの山岳ガイド ⑥ その他 (具体的に：)

V-3 大台ヶ原でガイドを利用とした場合、ガイド料金を利用者一人当たり何円までなら支払ってもよいとお考えになりますか。この中から1つだけお答えください。

① 2,000円以内 ② 2,000～3,000円 ③ 3,000～4,000円 ④ 4,000～5,000円
⑤ 内容が充実していれば5,000円以上でもよい

VI 西大台利用調整地区全般についてのご意見・ご要望等をお聞かせください。

[]

ご協力ありがとうございました。当用紙は大台ヶ原ビジターセンターの回収箱に投函していただくかお渡しした封筒で後日郵送してください。(切手は不要です)

近畿地方環境事務所請負業務

平成 27 年度大台ヶ原の利用対策に関する調査業務 報告書

平成 28 年 3 月 発行

業務発注者 **近畿地方環境事務所**

大阪府大阪市中央区大手前 1 丁目 7 番 31 号
大阪マーチャンドイズマート (OMM) ビル 8 階
Tel. 06-4792-0706

業務請負者 **株式会社自然産業研究所**

滋賀県大津市仰木の里東一丁目 1 番 2 号
Tel. 077-572-5336

本報告書の内容を許可なく複製・転載することを禁じます。

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
この印刷物はグリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「A ランク」のみを用いて作製しています。